熊本県文化財調査報告　第１７６集

立石遺跡　大鶴Ａ遺跡　上揚遺跡　前畑遺跡

担い手育成基盤整備事業に伴う文化財調査

１９９９

熊本県教育委員会

序　文

今回発掘調査報告書を刊行しました立石遺跡・大鶴Ａ遺跡・上揚遺跡・前畑遺跡は菊池郡大津町に所在します。大津町は古来より人々が生活を営み、悠久の流れを持つ白川はその文化を育んできました。

本書は平成５年度から８年度にかけて錦野地区担い手育成基盤整備事業（区画整理）に伴って発掘調査を実施した報告書です。調査の結果、縄文時代早期から歴史時代までの遺物・遺構が出土しました。特に白川流域南岸の弥生時代後期の資料は注目される内容で、出土した彩色土器は祭祀用と思われ、当時の人々の願いが偲ばれます。

今回の成果が学術的研究のみならず、県民の皆様を始め多くの方々に広く活用され、埋蔵文化財に対する関心と御理解を深めていただく一助となれば幸いに存じます。

最後に埋蔵文化財の発掘調査に御協力をいただいた県農政部・県菊池事務所耕地課・大津町役場・大津町教育委員会および地元の方々に対し、心より感謝申し上げます。

平成11年3月31日

熊本県教育長　　佐々木　正典

例　言

1　本書は、担い手育成基盤整備事業（大津町錦野地区）に伴い、平成５～８年にかけて発掘調査を行った立石遺跡・上揚遺跡・前畑遺跡・大鶴Ａ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。立石遺跡・上揚遺跡は菊池郡大津町大字錦野、前畑遺跡・大鶴Ａ遺跡は大字外牧に所在する。

2　熊本県遺跡地図では錦野遺跡（遺跡番号 43403080）で表記してあるが、錦野遺跡に立石遺跡・上揚遺跡は包括されるため本書では各遺跡で区分し、関連遺跡等は熊本県遺跡地図番号で表記した。

3　整理作業は熊本県文化財収蔵庫で行い、遺構実測図については最小限を掲載するに止め、写真を中心に編集をした。

4　現地での写真撮影は主として吉田正一、一部山下義満が行った。また遺物写真撮影は戸田清恵、製図・レイアウトは緒方千代子・井上美保・可児真由美・乗富祐子が行った。

5　本書の執筆は主として戸田、一部（第Ⅰ・Ⅱ章　第Ⅲ章 第４節）を山下が行い、編集は戸田が行った。

凡　例

1　住居番号は各調査区を頭文字とし住居番号で表記した。Ⅳ区２号住居の場合、402住となる。

2　写真に掲載されている遺物の縮尺は実物大の約２分の１の場合、Ｓ=約1/

本文目次

序文

例言

凡例

第Ⅰ章　調査に至る経緯と調査の概要 ……1

第Ⅱ章　各遺跡の位置と歴史的環境 ……3

第Ⅲ章　立石遺跡の調査

第1節　立石遺跡の位置と層位 ……7

第2節　縄文時代の遺構と遺物 ……7

第3節　弥生時代の遺構と遺物 ……13

第4節　配石遺構 ……24

第5節　まとめ ……25

第Ⅳ章　大鶴Ａ遺跡の調査

第1節　大鶴Ａ遺跡の位置と層位……29

第2節　縄文時代の遺物 ……30

第3節　弥生時代の遺構と遺物 ……31

第4節　古墳時代の遺構と遺物 ……34

第5節　中世以降の遺構と遺物 ……37

第6節　まとめ ……38

第Ⅴ章　上揚遺跡・前畑遺跡の調査

第1節　上揚遺跡 ……39

第2節　前畑遺跡 ……40

第Ⅵ章　総括 ……41

挿図目次

第 1 図　立石・上揚・前畑・大鶴Ａ各遺跡の調査区位置図……2
第 2 図　周辺遺跡分布図 ……4
第 3 図　立石遺跡基本土層図 ……7
第 4 図　立石遺跡調査区位置図 ……8
第 5 図　立石遺跡縄文時代遺構配置図 ……9
第 6 図　1号～5号集石実測図 ……10
第 7 図　6号～10号集石実測図 ……11
第 8 図　立石遺跡弥生時代遺構配置図 ……13
第 9 図　301号住居跡実測図 ……14
第 10 図　302・304号住居跡実測図 ……15
第 11 図　401・403・404・405・406・407号住居跡実測図 ……16
第 12 図　408号住居跡・土器溜め実測図 ……17
第 13 図　配石遺構実測図 ……24
第 14 図　大鶴Ａ遺跡基本土層図 ……29
第 15 図　大鶴Ａ遺跡調査区位置図 ……29
第 16 図　大鶴Ａ遺跡弥生時代遺構配置図 ……31
第 17 図　204・305・306号住居跡実測図 ……32
第 18 図　不明遺構実測図 ……33
第 19 図　大鶴Ａ遺跡古墳時代遺構配置図 ……34
第 20 図　201・202・203・302号住居跡実測図 ……35
第 21 図　303・304号住居跡実測図 ……36
第 22 図　大鶴Ａ遺跡中世以降の遺構配置図 ……37
第 23 図　上揚遺跡遺B区構配置図……39
第 24 図　前畑遺跡遺構配置図 ……40

表目次

第 1 表　周辺遺跡地名表 ……5
第 2 表　立石遺跡弥生土器出土量 ……41
第 3 表　出土遺物一覧 ……43

遺構写真目次

立石遺跡5号集石検出状況 ……10
立石遺跡301号住居跡完掘状況 ……14
立石遺跡土器溜め検出状況 ……17
立石遺跡航空写真（東上空より） ……25
大鶴Ａ遺跡306号住居跡遺物出土状況 ……32
大鶴Ａ遺跡A区溝遺構完掘状況 ……37

第Ⅰ章　調査に至る経緯と調査の概要

各遺跡は白川の南岸、沖積平野に位置する。この地区に担い手育成基盤整備事業（大津町錦野地区）の計画がなされたのは平成5年11月（農政部採択通知）のことである。担い手育成基盤整備事業は機械化営農技術の発展等に即して、農地等の区画形質の変更等を行うことにより農業生産の向上を図り、併せて農業構造の改善に資することを目的とし、平成5年度新規採択当時は「錦野地区担い手育成基盤整備事業（区画整理）」であったが、平成9年度に圃場整備事業の再編がなされ「錦野地区県営圃場整備事業（担い手育成・区画整理）」となった。事業の受益地は74.3haで受益者数は171名に及ぶ。工事は平成5年12月に着工し平成12年度に完了予定である。

調査は工事対象地域内の試掘成果によって県文化課と県農政部・菊池事務所耕地課と協議を行い埋蔵文化財に影響のおよぶ範囲を確認し調査区を設定した。

各調査は重機による表土剥ぎの後、清掃を行った。実測図作成に供するための基準作りとして、国土座標によるセンター杭を基準とし10ｍグリットを設定した。

最終年度の調査組織及び各遺跡の調査担当者、報告書担当者は下記のとおりである。

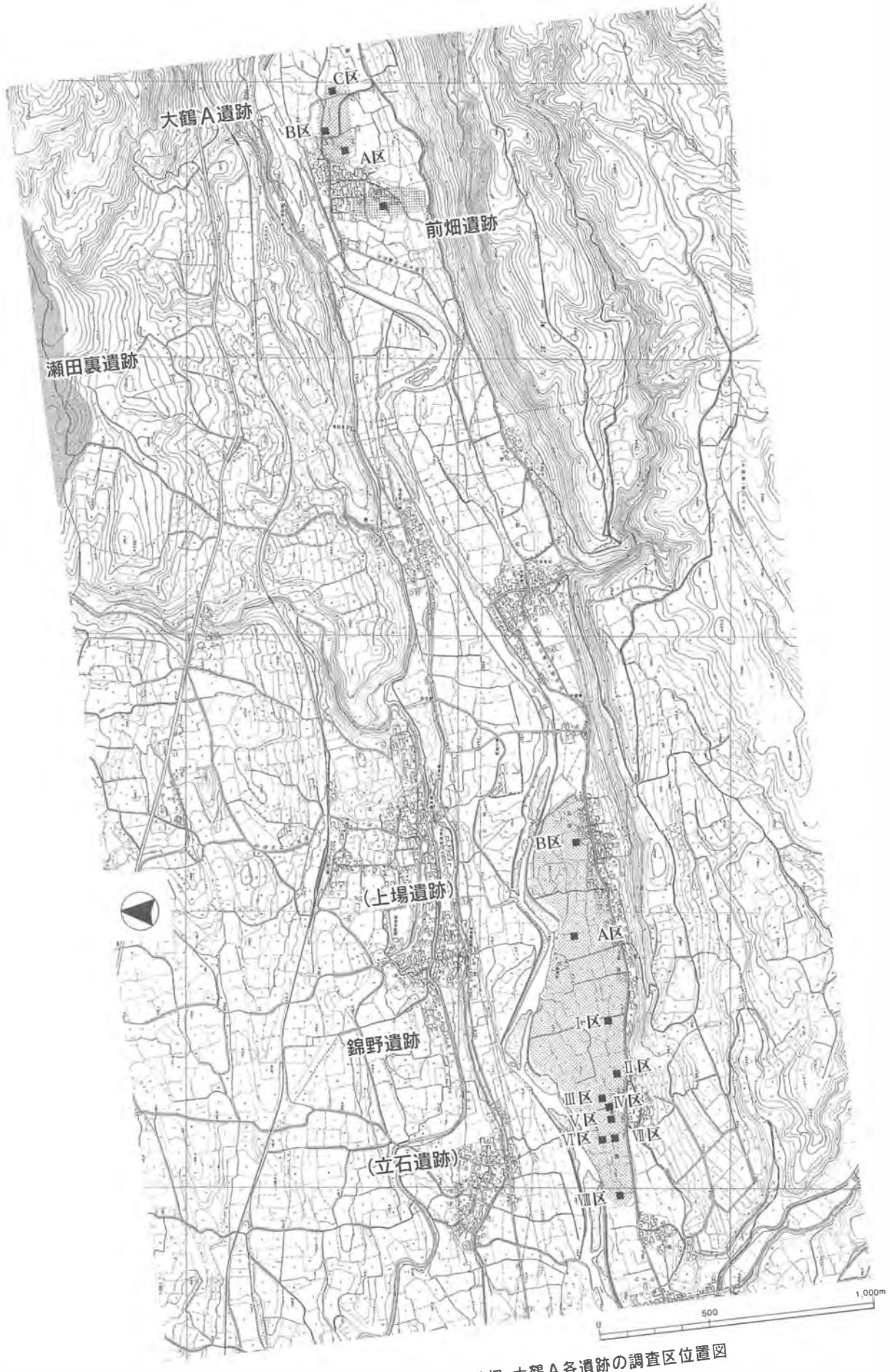
調査責任者	文化課長	桑山裕好
調査担当		
立石遺跡	文化財保護主事	山下義満
	嘱託	吉田正一
	嘱託	北原美和子
上揚遺跡	嘱託	吉田正一
前畑遺跡	嘱託	吉田正一
大鶴Ａ遺跡	嘱託	吉田正一
報告書責任者	文化課長	豊田貞二
報告書担当	文化財保護主事	山下義満
	嘱託	戸田清恵
	嘱託	井上美保

なお、報告書作成に際し、次の方々にご協力、ご助言を頂いた。

大久保浩二（鹿児島県埋蔵文化財センター）
木﨑　康弘（熊本県文化企画課）
武末　純一（福岡大学）
中園　　聡

各遺跡の調査期間と調査面積及び時代は以下の通りである。

立石遺跡	平成5年12月～6年3月	2,050㎡
	縄文早期、弥生	
上揚遺跡	平成6年10月～7年3月	3,270㎡
	縄文早期、古墳、奈良・平安	
前畑遺跡	平成7年4月～7年9月	2,000㎡
	奈良・平安	
大鶴Ａ遺跡	平成7年9月～8年2月	2,420㎡
	縄文前～後期、弥生、古墳、中世	



第1図　立石・上揚・前畑・大鶴A各遺跡の調査区位置図

第Ⅱ章　各遺跡の位置と歴史的環境

阿蘇を源とする白川はやがて有明海に注ぎ、その流域距離は約63kmである。阿蘇の大爆発により周囲には現在の台地を形成し、北には合志川の支流矢護川と台地の南北の境界を形成するように白川は位置する。大津方面から阿蘇へは谷越えの二重（ふたえ）の峠と白川沿いの二つが近年まで交通ルートであった。従ってこの白川に存在する本報告の各遺跡のあり方が問われる。

各遺跡はこの白川沖積地帯に所在し、白川上流から、大鶴Ａ遺跡・前畑遺跡・上揚遺跡・立石遺跡の順に立地する。

各遺跡を中心とする地域は多くの遺跡が発見されている。以下、時代ごとに白川周辺と大津町の代表的な遺跡の簡単な紹介を行いたい。番号は熊本県遺跡地図（熊本県教育委員会　平成10年3月31日発行）の遺跡番号である。

旧石器時代

先ず旧石器であるが、隣接する旭志村湯舟原遺跡(43402027)からナイフ型石器・三稜尖頭器が採集されている。また大津町無田原遺跡(43403006)からは、剝片と砕片が出土していることから、湯舟原遺跡を中心として大津町北部台地での今後の先土器時代の遺跡発見の可能性が指摘されている。

縄文時代

縄文時代、白川流域では内牧B遺跡(43403084)・外牧遺跡(43403085)・白川北部の瀬田裏地域一帯と南部、白川支流の鳴子川沿い（西原村）に遺跡が点在するが、この時代は大津町にて最も充実する時期で、それは早期と後期～晩期に分かれる。

早期の代表的遺跡で配石遺構を検出した無田原遺跡(43403006)、注口を持つ壷型の押し型文土器を出土した瀬田裏B遺跡(43403078)が知られている。これらは早期にこの地で集落が形成されたことを意味し、後期～晩期にも同じように大津北部から旭志村～菊池南部にかけて大集落を形成し、様相が一変する。

ワクド石遺跡(43403002)・旭志村伊坂・上の原遺跡など規模が比較的大型である。これらの遺跡は土偶・玉類などを伴う例があり、その精神文化も充実する時期でもある。縄文期の傾向として早期に拠点集落的遺跡が存在し多様な遺構・遺物が確認されるが、前期から中期ではその前後の時期と比べて発見例は少なく、しかも大規模遺跡が少ないのが特徴である。

弥生時代以降

弥生期、現在確認されている遺跡から、外牧遺跡(43403085)・鳴子川遺跡(43403079)・岩坂遺跡(43403058)・上陣内遺跡(43403065)が本報告書遺跡付近の白川に沿い存在する。立石遺跡はこの時期の中期から後期にかけての集落地であり、菊陽町梅の木遺跡(43404019)から立石遺跡まで遺跡の集中がある。そしてもう一つの集中区が銅戈２本を出土した大松山遺跡(43403038)・後期には二重の環濠を巡らした集落、西弥護免遺跡(43403035)などの北部に集落遺跡の増加が見られる。したがって弥生期には白川沿いと台地上に遺跡が存在する。

古墳時代には白川周辺に遺跡が見られず、近辺には集落として北部に瀬田裏遺跡(43403045)・瀬田雨留尾遺跡(43403044)と西原村鳴子川沿いに点在する。また古墳として矢護川流域・瀬田裏地域・大林地域などに円墳が確認または存在していたが、前方後円墳などの規模の大きな古墳は見られない。横穴墓として後迫横穴群(43403037)や岩坂横穴(43403060)がある。

歴史時代になると旧石器が採集されている旭志村湯舟原遺跡(43402027)で石製帯金具が出土していることから官牧の存在を想定する意見がある。

熊本県内において近年、歴史時代の遺跡発掘例が微増の傾向にあるため、今後、大津町及び周辺での歴史時代の遺跡発見が期待される。

第2図　周辺遺跡分布図

熊本県（43）大津町（403）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
010	祝屋敢	真木	弥生	包蔵地		野辺田式土器出土
013	九万石城跡	矢護川　中在目	中世	城		
014	一尾刎2地点	矢護川　一尾刎	古墳	包蔵地		古墳後期
017	ナギナタ	平川（通称ナギナタ）	縄文	包蔵地		条痕文、御領式、野辺田式
020	水の山	矢護川　水の山	縄文	包蔵地		押型文、御領式、黒髪式、野辺田式、支石墓
021	平川仮宿	平川　水落	弥生・古代	包蔵地		
022	真木古墳	真木	古墳	古墳		円墳
023	今城跡（真木城）	真木　東津留	中世	城		合志一族
024	真木	真木	縄文	包蔵地		銅戈2本、国立博物館買い上げ
025	古城村城跡	古城　四番東原	中世	城		合志一族居城
026	合志一族墓	真木	中世	墓		
027	中後迫	古城　中後迫	縄文	包蔵地		押型文、塞の神式
028	日向	矢護川　日向	弥生	包蔵地		弥生中期後期土器片
029	萩野尾城跡	平川　傾城平	中世	城		
030	陰嶽城跡	平川	中世	城		
035	西弥國免	大津　西弥國免	弥生～古墳	包蔵地		
037	後迫横穴群	大津　後迫	古墳	古墳		コの字型床、奥床を備えるあり
038	大松山	大津（通称大松山）	弥生	包蔵地		銅戈2出土
039	西嶽	大津　西嶽	古墳	包蔵地		野辺田式土器包含、台付壺出土
040	八窪	大津　八窪	縄文～中世	包蔵地		
041	五里木跡	大津	近世	交通		
043	引水	引水	弥生	包蔵地		コベスの西100m、弥生末期
044	瀬田南留尾	瀬田	古墳・縄文・弥生	包蔵地		寺跡・（屋敷跡）
045	瀬田裏	瀬田　長袖ほか	縄文・古墳	包蔵地		
046	高尾野	高尾野　高尾野	古墳	包蔵地		野辺田式土器包含
047	六里木跡	大津	近世	交通		
048	渭正公道	高尾野	近世	交通		
049	瀬田裏古墳群	瀬田　瀬田裏	古墳	古墳		3～4基（石室のみ）、封土なし
050	瀬田裏E地点	瀬田　瀬田裏	縄文	包蔵地		
051	大津	大津　大津	縄文	包蔵地		大石鏃・石槍・土師器片小数、大津高校グラウンド
054	上陣内	陣内　上國	弥生～古代	包蔵地		
055	下陣内	陣内	古墳	包蔵地		土師器散布
056	西念寺跡	岩坂	中世	寺社		室町期、大型五輪塔片
057	岩坂	岩坂	縄文	包蔵地		押型文土器
058	宝満鶴	中島　宝満鶴	弥生	包蔵地		櫛目波状文、弥生
059	森	森　榎迫	縄文	包蔵地		御領式
060	岩坂横穴	岩坂（通称迫出）	古墳	古墳		須恵器
061	城の本城跡	吹田　上池鶴	中世	城		
062	池上城跡	吹田　上池鶴	中世	城		中世城跡
063	田尾	陣内（通称田尾）	古代・中世	包蔵地		
064	玉岡城跡	陣内　順田	中世	城		（若宮城跡）
065	外牧代官所跡	外牧	中世	城		（荒戸城）
066	南郷往還跡	外牧	近世	建造物		石畳道、幅約2m長25m
067	上井出取入口	外牧　大鶴	近世	建造物		
068	葉山城跡	外牧　露鶴	中世	城		
069	岩戸神社岩かげ	外牧　畑鶴	縄文	包蔵地		岩陰遺跡
071	岩坂カンカン塔	岩坂	中世	石造物	町	
072	岩坂経塚	岩坂	中世	経塚		
073	吹田A	吹田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
074	吹田B	吹田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
075	吹田C	吹田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
076	吹田D	吹田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
077	瀬田裏A	瀬田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
078	瀬田裏B	瀬田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
079	烏子川	錦野　烏子川	弥生・古墳	包蔵地		後期土器
080	錦野	錦野　上揚	縄文～古代	集落		県調査
081	大鶴A	外牧　大鶴	縄文～古墳・中世	集落		県調査
082	大鶴B	外牧　大鶴	縄文	集落		県調査
083	前畑	外牧　前畑	縄文・古代	包蔵地		内牧遺跡A
084	内牧B	外牧	縄文	包蔵地		
085	外牧	外牧	縄文・弥生	集落		県調査
086	瀬田裏K	瀬田	縄文	包蔵地		土器
087	瀬田裏J	瀬田	縄文	包蔵地		剥片
088	瀬田裏I	瀬田	縄文	包蔵地		剥片
089	瀬田裏H	瀬田	縄文	包蔵地		土器
090	瀬田裏G	瀬田	縄文・古代	包蔵地		土器片、石鏃など
091	瀬田裏F	瀬田	縄文・古代	包蔵地		土器
092	瀬田裏D	瀬田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
093	瀬田裏C	瀬田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
094	吹田E	吹田	縄文	包蔵地		土器片、石鏃など
095	中井手	中井手	古代	包蔵地		

熊本県（43）阿蘇町（422）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
098	南赤水	赤水	弥生～中世	包蔵地		
138	二重峠の石畳道	車帰　坂ノ下	近世	建造物	町	車帰地蔵・参勤交代石畳
139	二重峠	車帰	旧石器	包蔵地		
141	上無田	無田　渡瀬	縄文・弥生	包蔵地		石鏃・石斧
145	車帰	車帰　村下	縄文～中世	包蔵地		
173	二重峠A	車帰	旧石器	包蔵地		切り出し型ナイフ、石核、剥片
174	二重峠B	車帰	縄文	包蔵地		縄文土器
268	井川下	車帰	縄文	包蔵地		一部土師器
269	猪出口	車帰　坂ノ下	平安	包蔵地		土師器（8C~9C）
270	坂ノ下田	車帰	縄文	包蔵地		
271	道宗	車帰	古代	包蔵地		土師器・須恵器

熊本県（43）阿蘇町（432）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
006	小園	烏子　持矢倉	縄文～古代	包蔵地		石器、須恵器
007	皆元	烏子　皆元	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・石器
008	馬場	烏子　馬場	古墳	包蔵地		須恵器
009	燦の平	烏子　燦の平	縄文・弥生	包蔵地		縄文後晩期土器・弥生土器・土師器

第1表　周辺遺跡地名表

010	桃の木原	鳥子　桃の木原	縄文	包蔵地		縄文早・晩期土器、土師器
011	がくが峰	鳥子　鳥越	弥生	包蔵地		弥生後期土器
012	きつね塚古墳群	小森　風当雲	古墳	古墳		円墳、直刀出土
013	風当	小森　風当	弥生	古墳		弥生後期土器・石包丁
014	古関	鳥子　古関	縄文	包蔵地		縄文早・晩期土器、土師器
015	葛目	鳥子　上葛目	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期・弥生後期土器、土師器
016	葛目横穴	鳥子　葛目谷	古墳	古墳		
017	下六段田横穴	鳥子　下六反田	古墳	古墳		
018	皆の元の宝器出土地	鳥子　皆元	近世	包蔵地		鉄器12点、肥前陶
019	鳥子城跡	鳥子　陣ノ上	中世	城		中世城跡
020	古関向	鳥子　古関向	縄文	包蔵地		
021	鳥子陣の上	鳥子　陣ノ上	縄文	包蔵地		
022	下六段田の磨崖仏	鳥子　下六反田	中世	石造物	村	
023	上鳥子横穴群	鳥子　水の谷	古墳	古墳		
024	きつね塚石棺群	小森　風当雲	古墳	埋葬		
057	桑鶴古屋敷	小森　桑鶴	縄文～古墳	包蔵地		縄文・弥生・古墳期土器出土
058	桑鶴扇坂の口(桑鶴古池サン)	小森　桑鶴	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生
059	桑鶴	小森　桑鶴	弥生	包蔵地		弥生土器・土師器・須恵器
060	日南為	鳥子　日南為	縄文～古代	包蔵地		
061	桑鶴土橋	小森　桑鶴土橋	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生土器、土師器
062	丸林	小森　桑鶴	縄文～古代	包蔵地		
063	鳥子城	鳥子　上鳥子	中世	城		中世城跡
064	後迫	鳥子　後迫	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期・弥生後期、土師器
065	どや堤の上	小森　大切畑	弥生	包蔵地		弥生後期土器・土師器・須恵器
066	うつさい	小森　土橋	弥生	包蔵地		弥生後期土器
067	袴野	小森　袴ノ雲	縄文・弥生	包蔵地		縄文前期・弥生土器
069	揺が池	小森　桑鶴	弥生	包蔵地		弥生後期土器・土師器・須恵器
070	揺が池西側台地	小森　桑鶴	縄文・弥生	包蔵地		縄文後晩期・弥生後晩期土器
071	先ノ原	小森　大切畑雲	縄文～中世	包蔵地		
076	風森	小森	縄文～中世	包蔵地		
077	新所草上の原	小森	縄文～中世	包蔵地		
078	涼み塚	小森	縄文～中世	包蔵地		
117	扇ノ坂A	桑鶴	旧石器～縄文	包蔵地		土器片・剥片・石核採集

熊本県（43）阿蘇町（431）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
027	栃木	河陽　栃木	縄文	包蔵地		

熊本県（43）阿蘇町（430）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
065	扇ノ坂B	河陰	旧石器～縄文	包蔵地		
066	扇ノ坂C	河陰	旧石器～縄文	包蔵地		
067	扇ノ坂D	河陰	旧石器～縄文	包蔵地		

第1表　周辺遺跡地名表（つづき）

立石遺跡　発掘調査風景

第Ⅲ章　立石遺跡の調査

第1節　立石遺跡の位置と層位

位置（第２図）

立石遺跡は大津町大字錦野に所在し、阿蘇盆地に源を発する白川と北向山からのびる急崖との間の幅の狭い沖積地上に位置する。標高は遺跡の東端で約120m、西端においては約110mで東から西に緩やかに傾斜している。調査区は西から順にⅠ区からⅧ区まで設定された。

層位（第３図）

Ⅰ層　灰褐色土　耕作土である。最も厚いところで1.8mに達する。

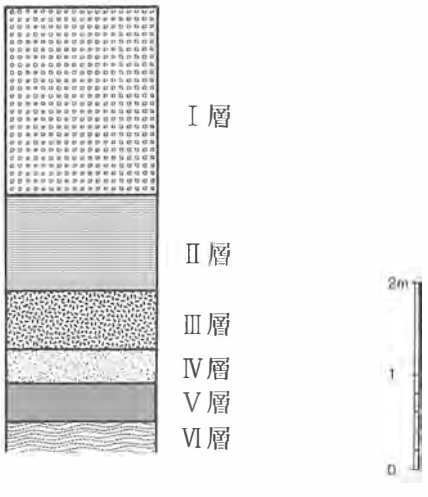
Ⅱ層　褐色土　アカホヤ火山灰の二次堆積土で、弥生時代の遺物を包含し、当時期の遺構が検出される。厚さは20～50cmである。

Ⅲ層　黒褐色土　縄文時代早期の遺物が包含される。この層の上面で当時期の集石が検出される。

Ⅳ層　淡褐色土　粘性を帯びている。無遺物層である。

Ⅴ層　暗褐色土　粘性を帯びている。無遺物層である。

Ⅵ層　黄褐色土　粘性を帯びている。無遺物層である。



第3図　立石遺跡　基本土層図

第２節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、Ⅵ区から集石10基が検出された。いずれもⅢ層からの検出で、遺構配置図に見られるように集石は南北両方向に広がると思われる。遺構の周囲からは、縄文早期の山形文・楕円文・格子目文の押型文土器、瘤付の無文土器、条痕文土器などが出土している。また、包含層からは撚糸文土器・縄文土器がわずかに出土している。以下集石について詳細に記述する。

1号集石（第６図）

1.6×1.0mの範囲に広がる。中央に大きめの石があり、周囲には拳大の破砕礫が約30個ほど散在している。掘り込みは確認されていない。
集石の周囲からは楕円文・山形文の押型文土器、無文土器の胴部片が出土している。

2号集石（第６図）

1.3×1.0mの範囲に広がる。中央に30cm前後の大きめの石が2個あり、周囲には20cm前後の扁平な礫を中心に集石している。掘り込みは確認されていない。周囲からは、山形の押型文土器、無文土器の胴部片、縄文の圧痕が数条のこる底部が出土している。

3号集石（第６図）

1.2×1.2mの範囲に広がる。石は散在し、その間に土器が混じる。掘り込みは確認されていない。破砕礫が多く、集石の中及び周囲からは山形文・楕円文の押型文土器、無文土器などが出土している。

4号集石（第６図）

1.4×1.3mの範囲に広がる。石は散在し、間に土器片が混じる。掘り込みは確認されていない。集石の中及び周囲からは山形文・楕円文の押型文、瘤付の無文土器、条痕文土器が出土している。

第4図　立石遺跡　調査区位置図

5号集石（第6図・5号集石 検出状況写真）

1.1×1.0ｍの範囲に、30㎝前後の大きめの石が花弁状に配されている。集石群のなかでこのような形態は唯一であり、掘り込みは確認されていないが断面の石のあり方などから浅い掘り込みの中に花弁状に配置されていたものと思われる。周囲より山形文の押型文土器、無
いる。

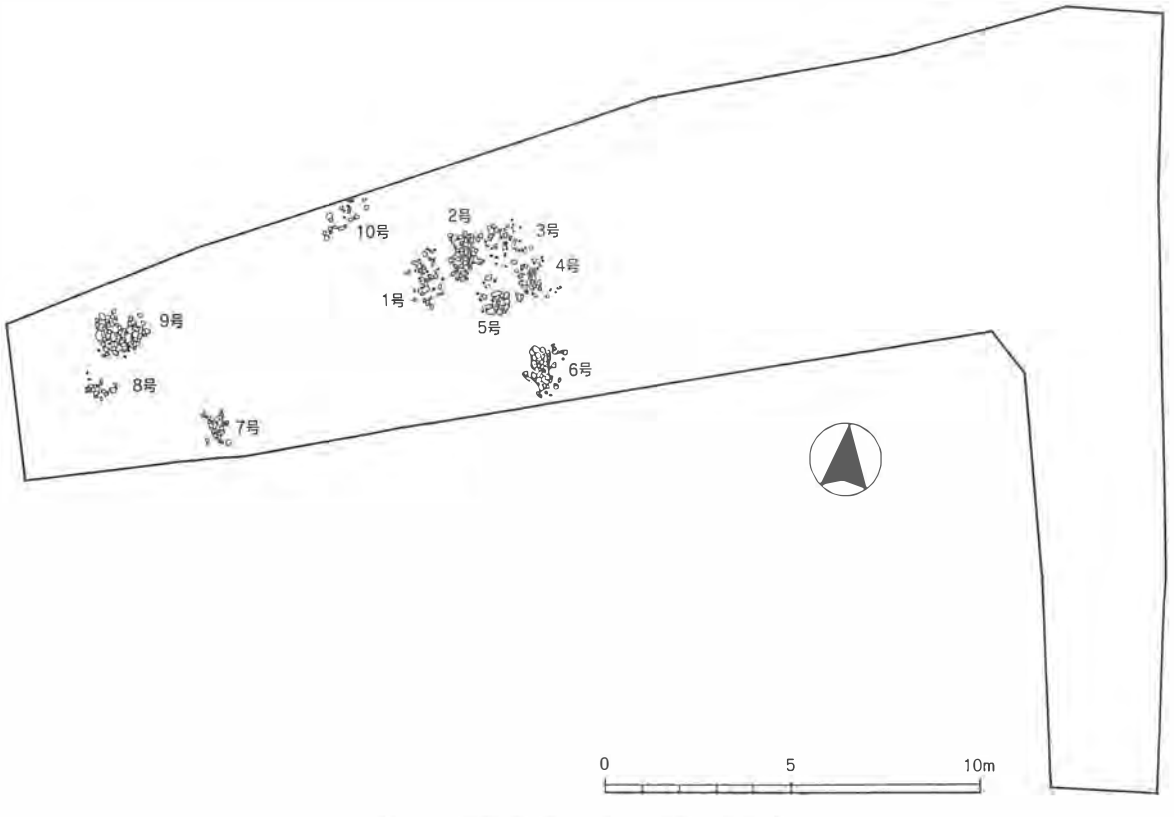
6号集石（第７図）

1.8×1.1ｍの範囲に広がる。集石の北端に40㎝前後の大きな扁平な石がある。全体的に扁平な石が多く、集石間に土器が混じる。掘り込みは確認されていない。山形文の押型文土器の底部、条痕文土器の胴部片など3点の土器が周囲より出土している。

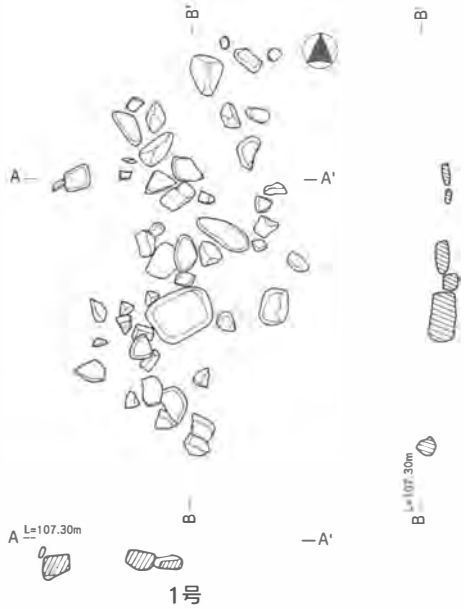
7号集石（第７図）

1.1×0.9ｍの範囲に広がる。10㎝前後の扁平な石材が多い。掘
器の胴部片が1点出土している。

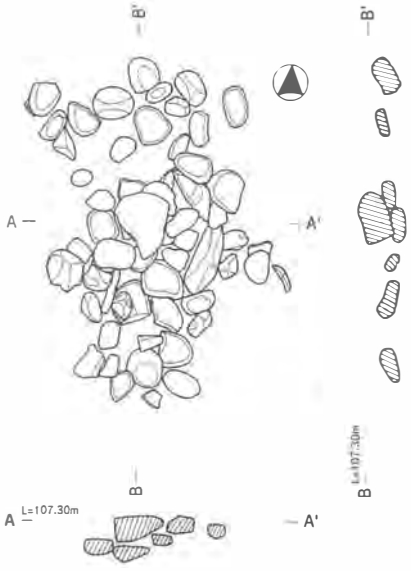
Ⅵ区　航空写真



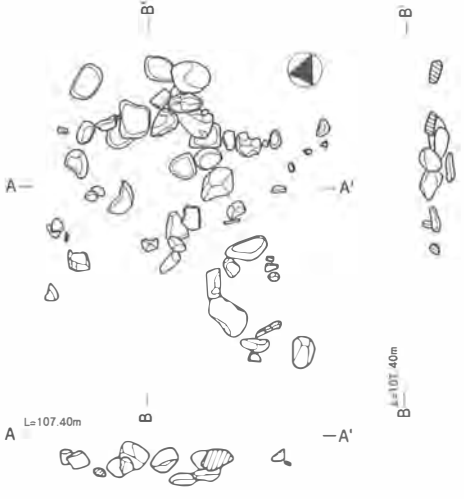
第5図　立石遺跡　縄文時代遺構配置図



1号

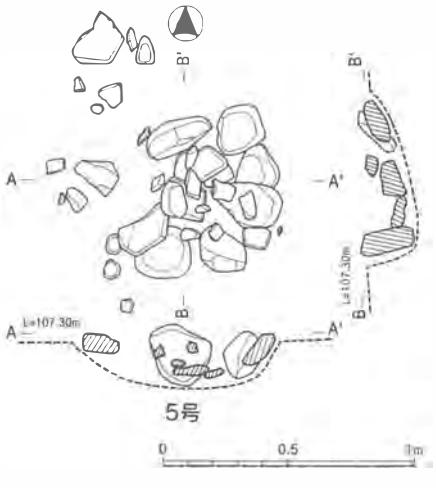


2号



3号

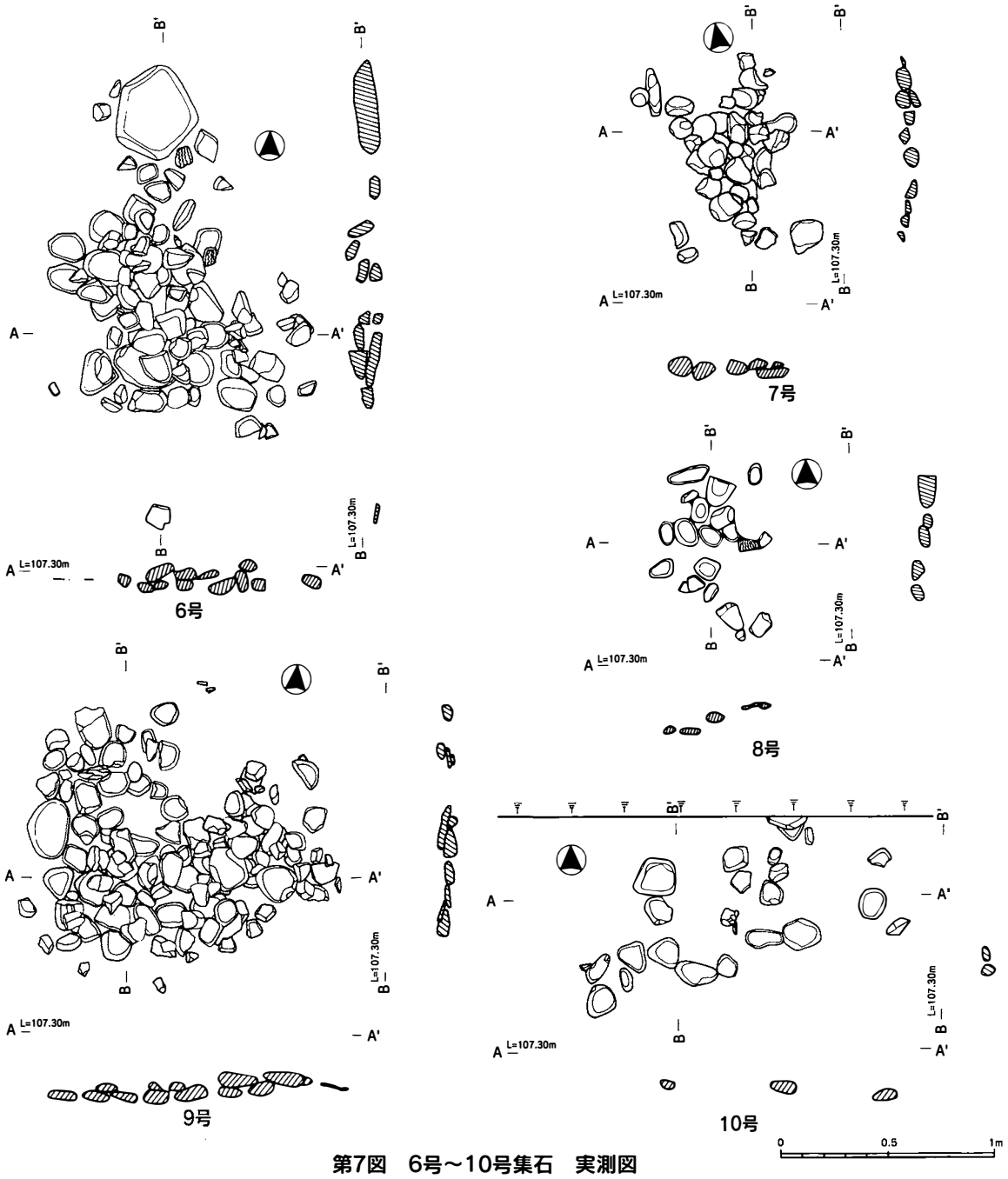
4号



5号

5号集石　検出状況

第6図　1号～5号集石　実測図



第7図　6号～10号集石　実測図

8号集石（第7図）

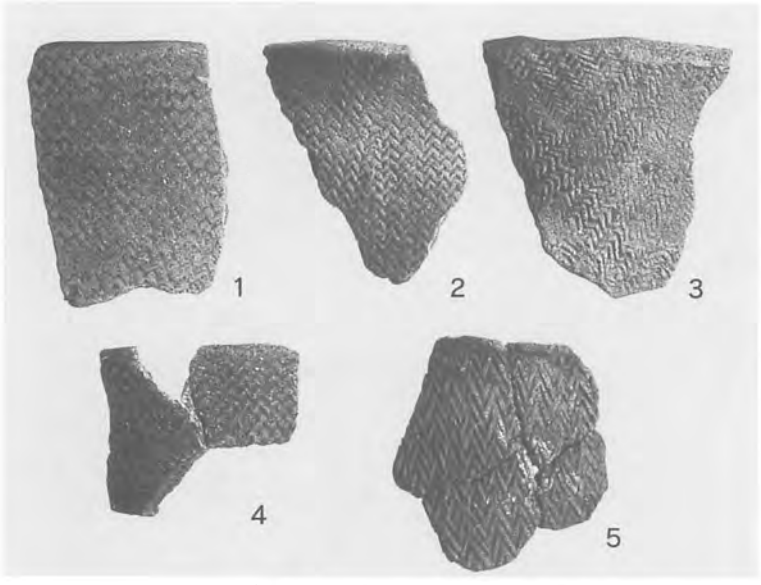
0.7×0.9mの範囲に数個の石が散在している。

9号集石（第７図）

1.6×1.3ｍの範囲に広がる。集石の西側に25㎝前後の扁平な大きめの石があり、周囲に15㎝前後の扁平な石が集石する。掘り込みは確認されていない。集石の北東部には空白の部分があり、抜き取られた跡と考えられる。遺構配置図からもわかるように「8号集石」は9号集石に近接しており、この抜き取られた石の可能性がある。集石の中及び周囲から押型文土器・無文土器などが出土している。

10号集石（第７図）

集石の北側は調査区外に延びており、広がる範囲は不明である。石は散在しており、掘り込みも確認されていない。



押型文土器(山形文)

押型文土器(楕円文)

無文土器

押型文土器　底部

条痕文土器

縄文時代早期　集石および包含層出土の土器　S=約1/3

第3節　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、遺構配置図に見られるようにⅢ、Ⅳ区から検出された。その内容は、竪穴式住居跡が10軒、土器溜め１基で、10軒の竪穴式住居跡のうち３軒は切り合った状態で検出された。いずれも弥生時代後期のもので、Ⅱ層から検出された。 また遺物はⅢ、Ⅳ区以外の調査区からも見つかっている。その中には遺構にともなう時期（弥生時代後期）以外にも、弥生時代中期の遺物も含まれる。以下検出された遺構ごとに詳細を記述する。

301号住居跡（第9図）

住居跡の東側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する軸の長さは4.40m、遺構検出面からの深さは約40㎝を測る。床の中央部には炉があり、その炉を挟んで２本の主柱があったと考えられる。住居跡の西側と南側には床面より約10㎝のところにベッド状遺構がある。また、炉の東側には焼土が広がり、炭化材も見られることから焼失家屋の可能性が高い。

出土遺物

床およびベッド状遺構の直上より甕形土器が2個出土している。いずれも外器面にはタタキ目が見られハケメとナデ調整が施され、内器面にはハケメとナデ調整が施されている。いずれも底部を欠き、その欠損部の割れ口から内器面にかけてススの付着が認められる。

302号住居跡（第10図）

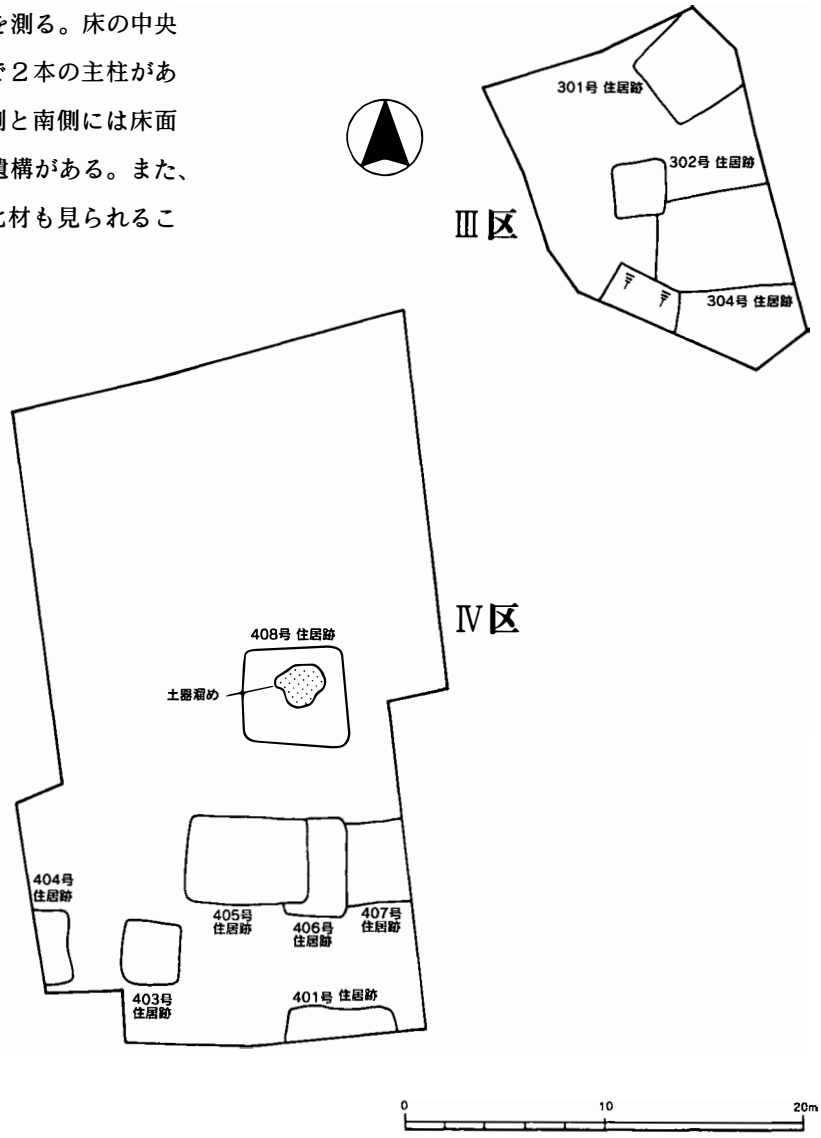
304号住居跡の北西部を切る形で検出されている。平面形態は長方形で、長軸3.00ｍ、短軸2.68ｍ、遺構検出面からの深さは約40㎝を測る。柱穴は検出されていない。床より粉状の骨片が出土している。

出土遺物

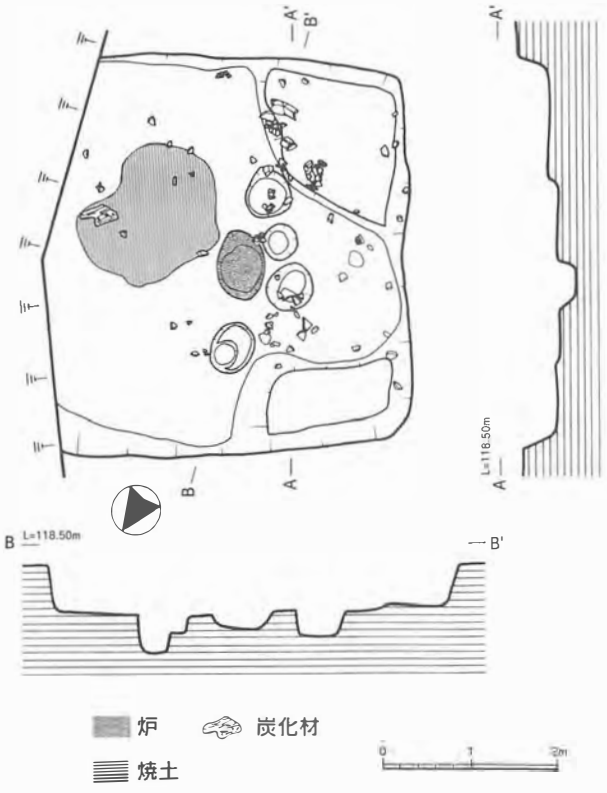
遺物の量は少ない。弥生土器の小片が数点出土している。

304号住居跡（第１０図）

住居跡の東側が調査区外に延び、さらに東側は302号住居跡に切られている。平面形態は長方形を



第8図　立石遺跡　弥生時代遺構配置図



第9図　301号住居跡　実測図

301号　住居跡　完掘状況

301号住居跡出土　甕形土器　S=約1/8

呈し、長軸は5.88m以上、短軸は4.72mで遺構検出面からの深さは約40cmを測る。床の中央部には炉があり、長軸、短軸それぞれの軸方向に沿って柱穴がある。

出土遺物

床面直上からの出土遺物はないが、埋土中より銅鏃が出土している。また、断面形状が三角形を呈する複合口縁壺の口縁部、流水文が施された壺の肩部、くの字に屈曲する甕形土器の口縁部などが出土している。

401住居跡（第11図）

住居跡の南側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。調査時は2軒の住居跡の切り合いと考えられていたが、土層断面の状況より、浅い住居跡とされていたものは、ベッド状遺構と思われる。残存する軸の長さは5.52mで、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。

出土遺物

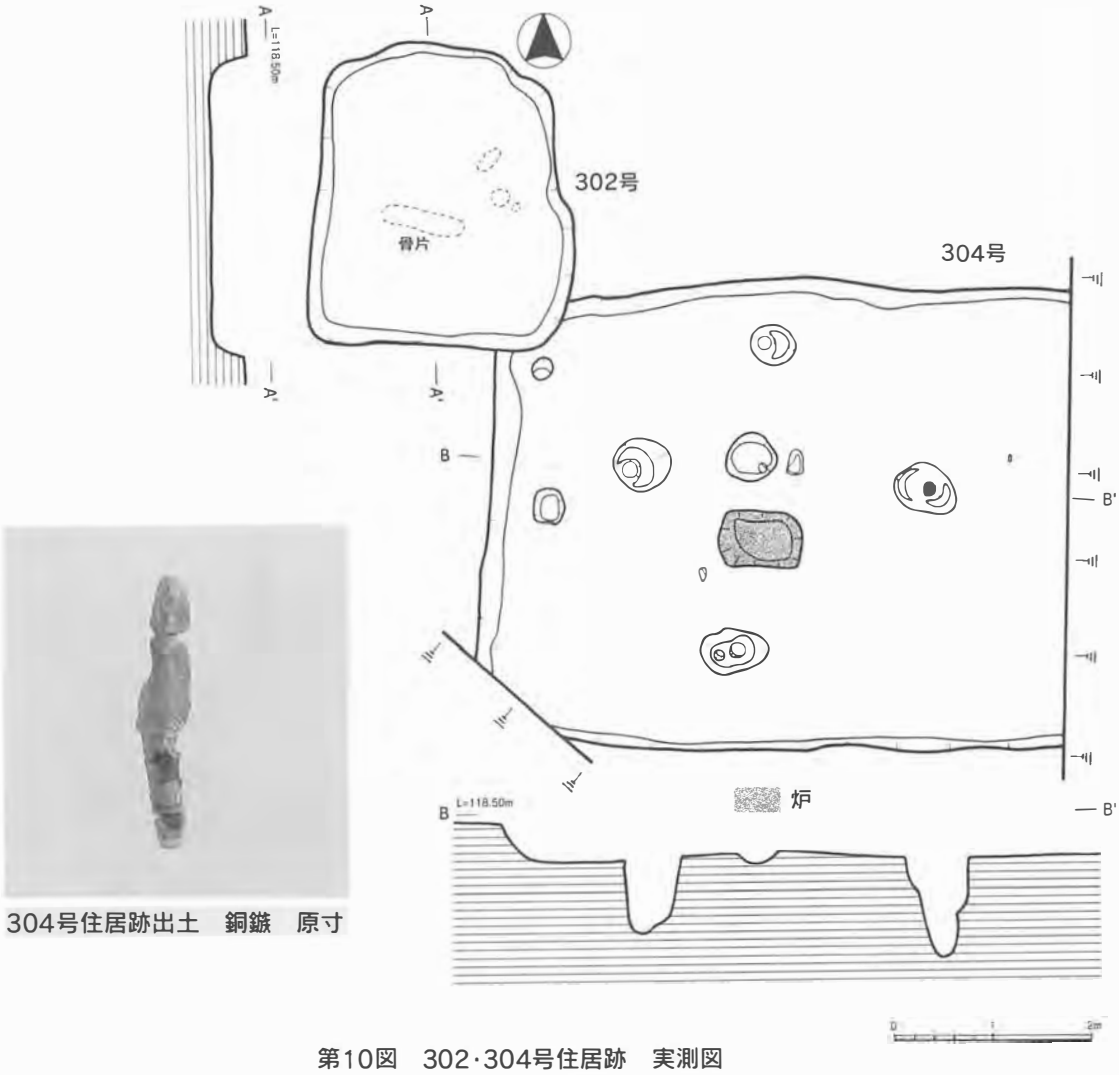
埋土中の遺物は他の住居跡に比べ少なく、弥生土器の小片がほとんどである。

403号住居跡（第11図）

平面形態は正方形で、長軸3.08m、短軸3.00m、遺構検出面からの深さは約18cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態などから住居跡とした。

出土遺物

出土量は少なく、流水文が施された壺の肩部の小片など、数点が出土しているのみである。



304号住居跡出土　銅鏃　原寸

第10図　302·304号住居跡　実測図

404号住居跡（第11図）

住居跡の南側と西側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する側の軸の長さは3.72ｍを測り、遺構検出面からの深さは約15㎝を測る。床より約5㎝のところにベッド状遺構がある。

出土遺物

タタキ目が見られ、ハケメとナデ調整が施された甕形土器の口縁部、胴部片が出土している。

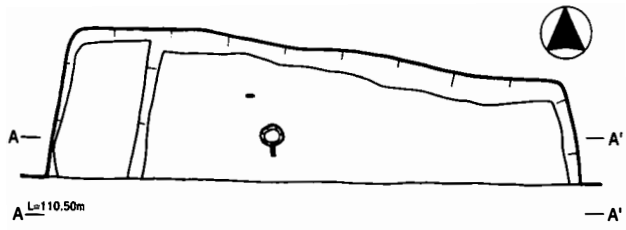
405・406・407号住居跡（第11図）

3軒が切り合った状態で検出されている。土層断面より、新旧関係は古い順に407→406→405号住居跡である。

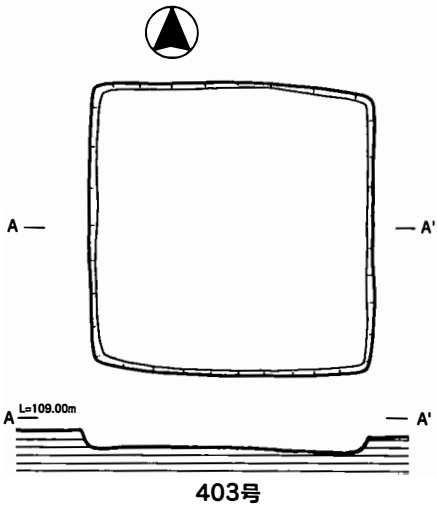
405号住居跡の平面形態は長方形である。長軸は6.36ｍ、短軸は4.60ｍで、主柱は4本と考えられる。床より約15㎝のところにはベッド状遺構がある。また、炭化材が3カ所で検出されている。

406号住居跡の平面形態も長方形を呈する。長軸の長さは４.96ｍで、主柱は長軸の方向に沿った2本と考えられる。主柱穴の方向から少しずれたところに炉があり、焼土が充填している状態で検出された。また、住居の北東部には床より約15㎝のところに約1.2ｍ×0.7ｍのベッド状遺構があり、その直上より炭化材が検出されている。

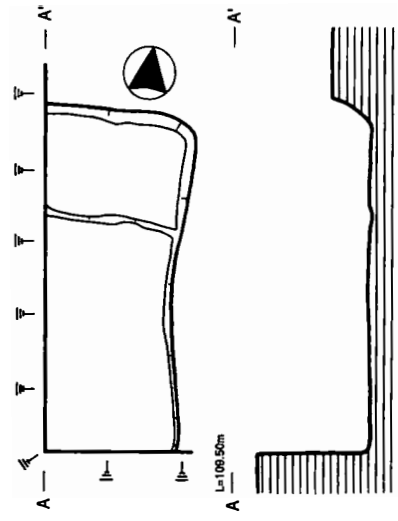
407号住居跡は西側を406号住居跡に切られ、東側は調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する側の軸の長さは4.32ｍで、床より焼土、ベンガラが検出されている。柱穴は見つかっていない。



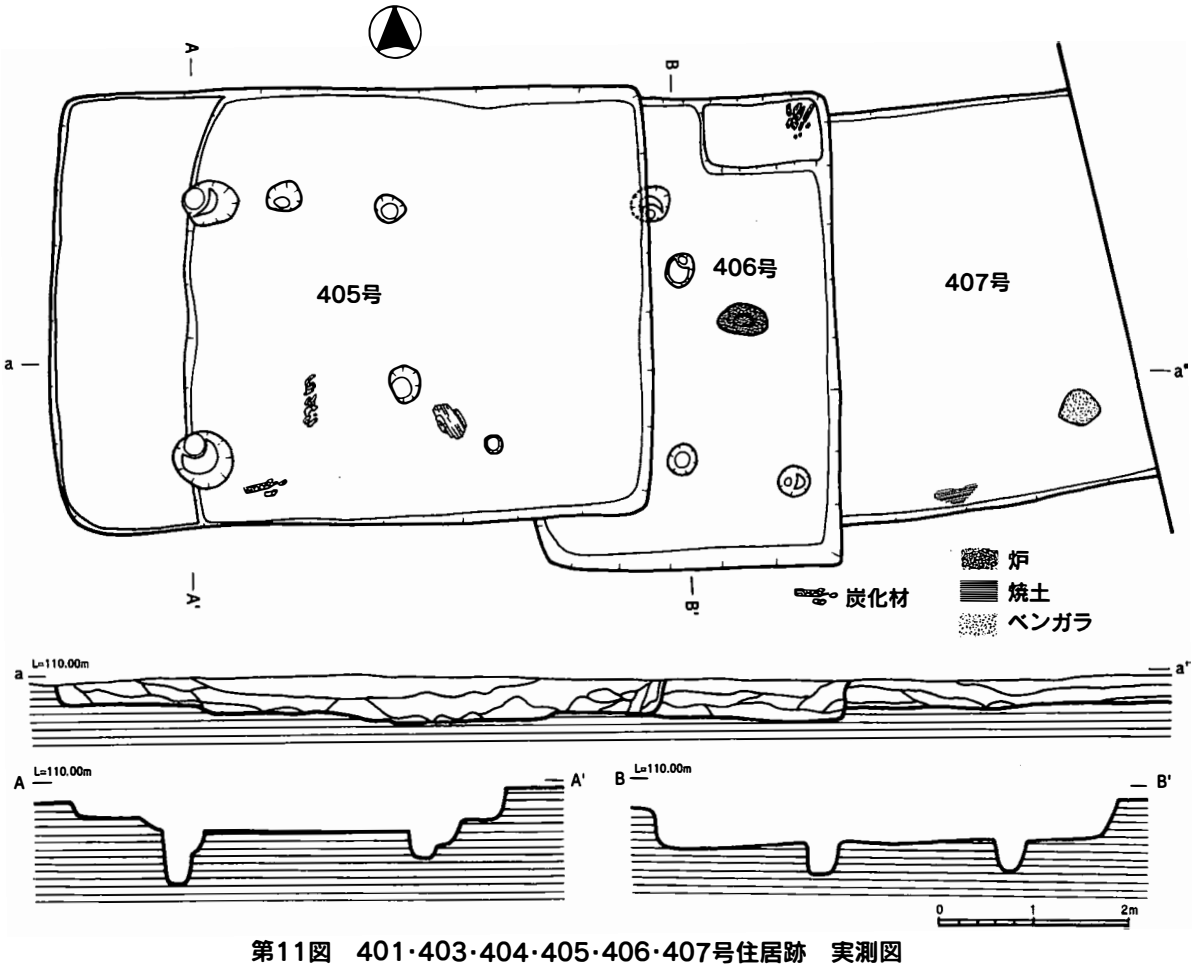
401号



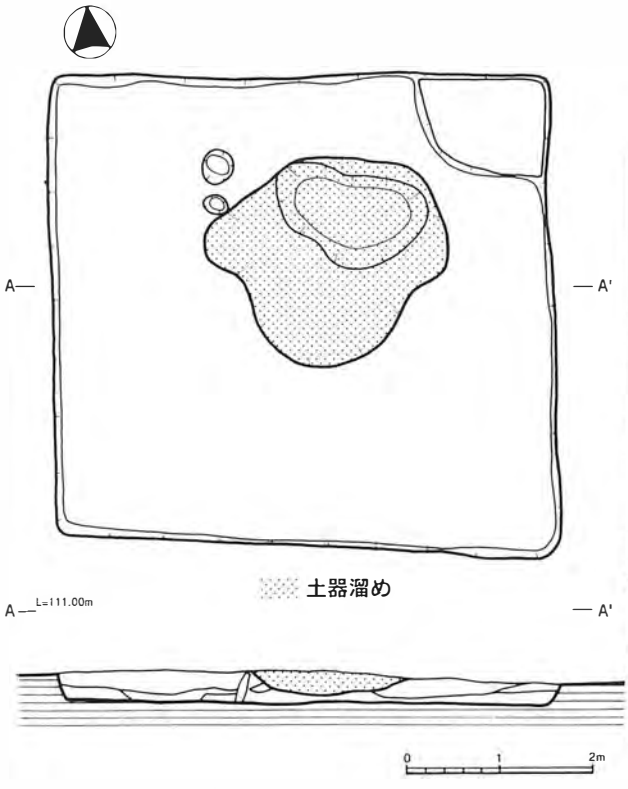
403号



404号



第11図　401·403·404·405·406·407号住居跡　実測図



第12図　408号住居跡・土器溜め　実測図

土器溜め　検出状況

出土遺物

切り合う3軒の住居跡のうち、最も出土量が多いのは405号住居跡で、タタキ目が見られ、ハケメ、ナデ調整が施された甕形土器の口縁部から胴部にかけて、また高坏の脚部などが出土している。

408号住居跡（第12図）

平面形態はほぼ正方形で、長軸5.32ｍ、短軸4.92ｍを測り、遺構検出面からの深さは約25㎝である。住居の北東部には径約0.65ｍの半円形のベッド状遺構がある。柱穴は2個検出されている。

出土遺物

出土量

土器溜め（第12図）

長軸1.28ｍ、短軸１.08ｍの土坑内から土器や石器などが出土した。土層断面からは408号住居跡が廃絶した後、覆土で竪穴が覆われたのち、土坑が掘られ、そこに廃棄されたものと解釈できる。

出土遺物

総個体数は約130個体以上にのぼる。器種別では、甕形土器が約100個体、壺形土器が約30個体、高坏2個体、器台５個体などとなっている。

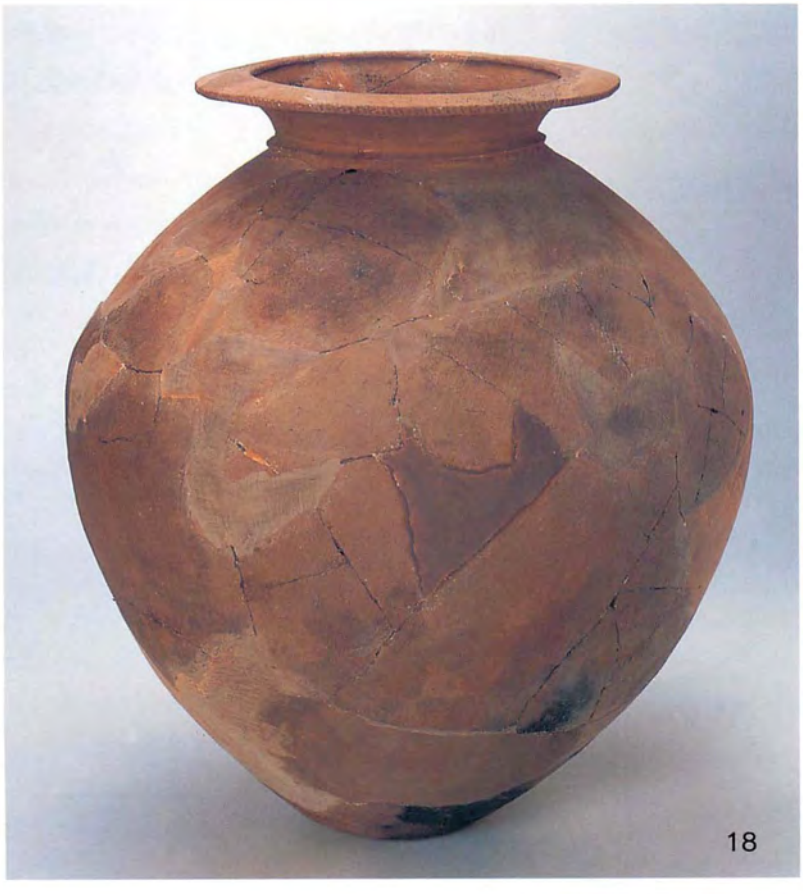
甕形土器は完全に復元可能なものが殆どないが、口縁部、底部の大きさなどから大型、中型、小型の３種類に分けられそうである。また、口縁部、底部の個体数に比して胴部の破片が少ない。

壺形土器は丹塗りの袋状口縁長頸壺をはじめとして、様々な器種が出土している。

以下に、復元できた出土遺物のうち、主なものを掲載する。

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

大型の壷はこのほか№20（19ページ）の3点が出土している。



壷形土器　S=約1/5

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

壷形土器　S=約1/5

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

25

26

27

立石遺跡全体では70点にのぼる
丹塗り土器の破片が出土している。

壷形土器（丹塗り）　S=約1/3

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

壷形土器　S=約1/3

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

高坏　S=約1/3

器台　S=約1/3

立石遺跡Ⅳ区土器溜め出土遺物

甕形土器　S=約1/5

39

40

41

※スケールは不統一

石器　S=約1/2

石器はこのほか、敲石・台石・くぼみ石など30点あまりが出土している。

42

磨石（丹付着）

43

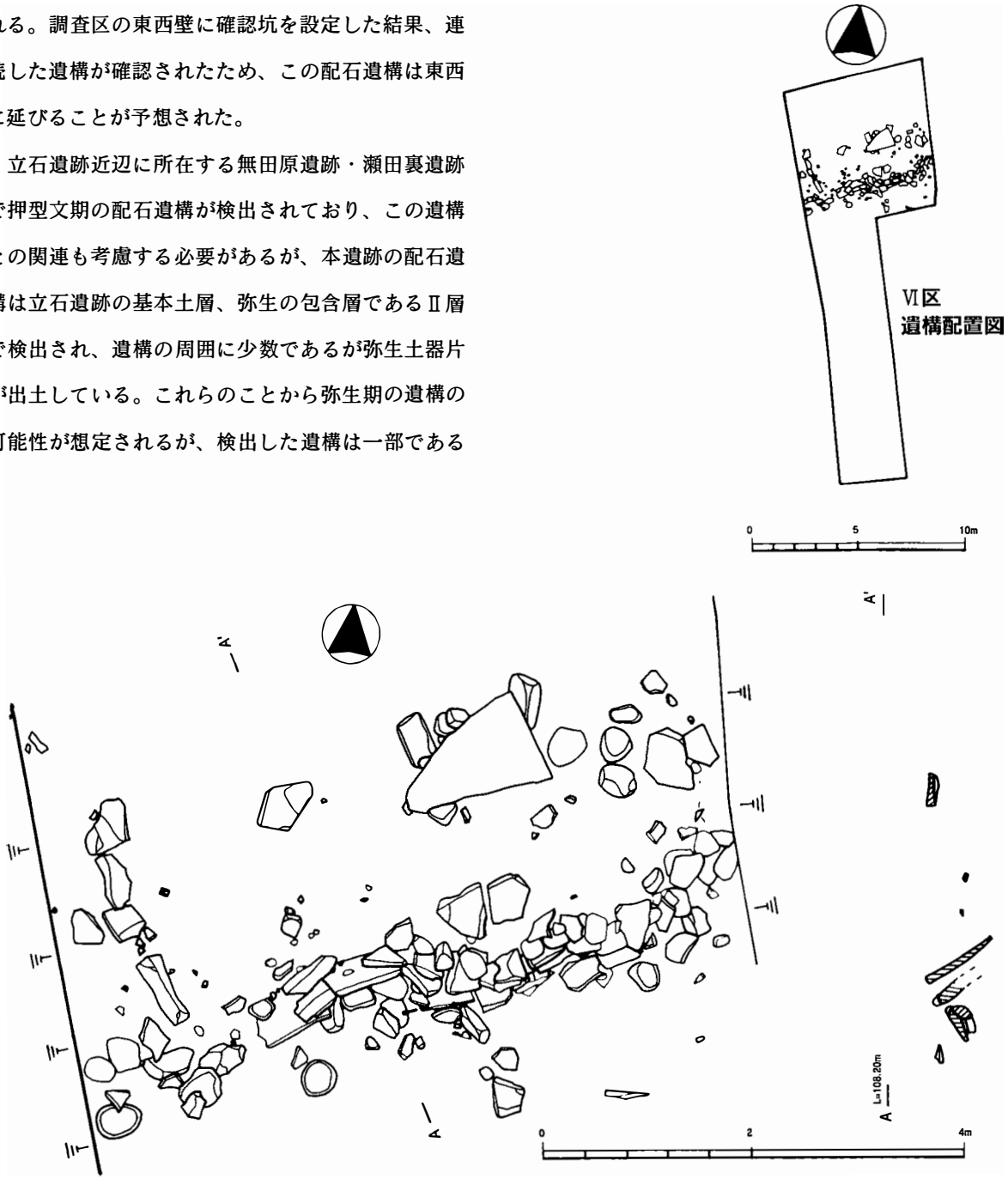
44

石斧

第４節　配石遺構（第１３図）

配石遺構は18ｍ×6ｍの南北に細長い調査区、Ⅳ区の中央よりやや北側にて検出された。遺構は東西軸と南北軸に延び、全体はT字型を呈している。東西軸に集中している板状石は南方向に傾斜した状況であったが、本来は直立した板状石が2列に配置され、板状石を固定するように円石を配置したものと思われる。調査区の東西壁に確認坑を設定した結果、連続した遺構が確認されたため、この配石遺構は東西に延びることが予想された。

立石遺跡近辺に所在する無田原遺跡・瀬田裏遺跡で押型文期の配石遺構が検出されており、この遺構との関連も考慮する必要があるが、本遺跡の配石遺構は立石遺跡の基本土層、弥生の包含層であるⅡ層で検出され、遺構の周囲に少数であるが弥生土器片が出土している。これらのことから弥生期の遺構の可能性が想定されるが、検出した遺構は一部であるため、この遺構の性格については不明な点が多く、その全体像については今後の類例を待つこととしたい。



第13図　配石遺構　実測図

第5節　まとめ

白川南岸の沖積地上に位置する立石遺跡では縄文時代早期から弥生時代までの遺構・遺物が出土した。特にこの遺跡で遺構の数、遺物の量が最も豊富なのは弥生時代後期でⅠ区～Ⅷ区までの全調査区から遺物が出土している。特に遺構が検出されているⅢ・Ⅳ区、隣接するⅤ区からは大量の土器が出土している。中でも、Ⅳ区に位置する土器溜めからは130個体以上の土器と石器が検出された。最も上層から丹塗りの壺が出土していることからも祭祀的な意味を持つ遺構である可能性が想定される。また、Ⅲ区の304号住居跡の埋土中からは鋤鏃が出土しており、これらのことからもこの地域の拠点となるような集落が存在していた可能性が高い。

以下、時代ごとに簡単にまとめたい。

立石遺跡航空写真　　（東上空より）

縄文時代

早期

【遺構】縄文時代早期の遺構はⅥ区にて集石10基が検出された。集石群は調査区外に広がることが考えられ、直径が1m前後の範囲を持つものがほとんどである。検出時に掘り込みが確認されていたものはなかったが、5号集石については断面の様子から掘り込みを持っていたものと考えられ、また花弁状に人頭大の角礫を配しており、典型的な石組み炉の形態である。

【遺物】

土器　押型文土器が約7割の割合で出土し、そのほか無文土器、条痕文土器などが集石の周囲から出土している。また、包含層出土の土器も集石の周囲の出土状況と同様の傾向が見られるが、そのほかに撚糸文土器や縄文土器が出土しており、その中には胴部に屈曲部を持ち、撚糸文が施文された手向山式土器が1点出土している。

石器　集石の周囲および包含層より石鏃、石斧などが出土している。

弥生時代

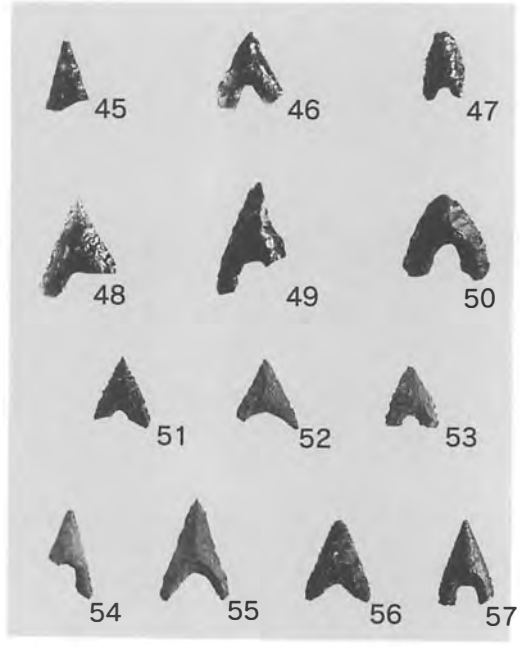
中期

【遺物】中期の遺構は検出されていないが、遺物は各調査区より検出されている。T字形口縁をもつ黒髪式土器などが出土している。

弥生時代

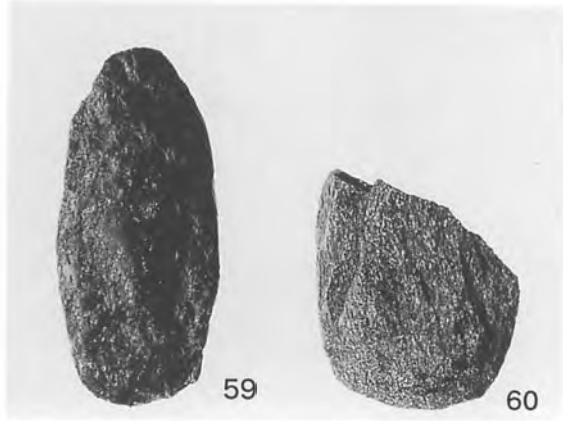
後期

【遺構】住居跡10軒、土器溜め1基が検出された。住居跡は2本柱で、ベッド状遺構をもつものもある。出土状況が最も良好な301号住居跡と土器溜めから出土の土器（甕形土器をもとに）、また3軒の切り合いを基準に住居跡の新旧関係を考えると、次頁のような図式になる。

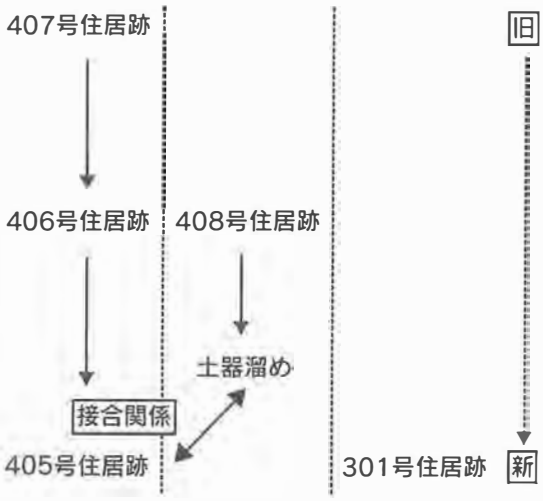


石鏃

石斧



立石遺跡出土　石器　S=約1/2



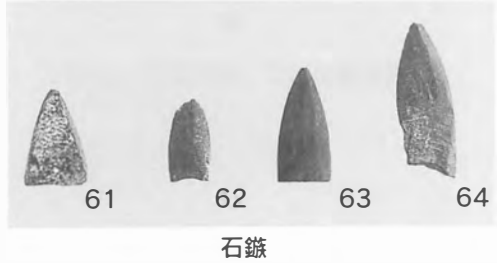
土器溜め出土の土器のうち405号住居跡下層出土の土器と接合するものが5点前後あり、土器溜めの土器の層位が不明であるため確実ではないが、おそらく土器溜め上層の土器が405号住居跡に流れ込んだものと考えられる。

【遺物】

土器　Ⅰ区～Ⅷ区にかけての遺構の埋土中や包含層から出土している。特に土器溜めからは壺形土器、甕形土器、高坏、器台がセットで出土しており、同時期におけるセット関係を知ることのできる良好な資料である。形態での比較ができる甕形土器についてみると、土器溜めからは、くの字に屈曲する口縁を持ち、ハケメとナデ調整が施されたもの（遺物№39・40）が出土し、301号住居跡からは、口縁部端部をつまみ上げタタキ目がのこりハケメとナデ調整が施されたもの（№14・15）が出土しており、形態から前者が後期前半頃、後者は後期後半頃に比定され、大きくはこの2つの時期に遺構が形成されていたと考えられる。

石器　石鏃（№61～64）、石包丁（№65）、有溝石器（№66）、砥石(№67)、環状石斧（№68・69）などが出土している。

鉄器　手鎌（№70・71）、鉇（№72～74）、鏃（№75~77）が出土している。立石遺跡全体では器種不明を含めると40数点にのぼる。

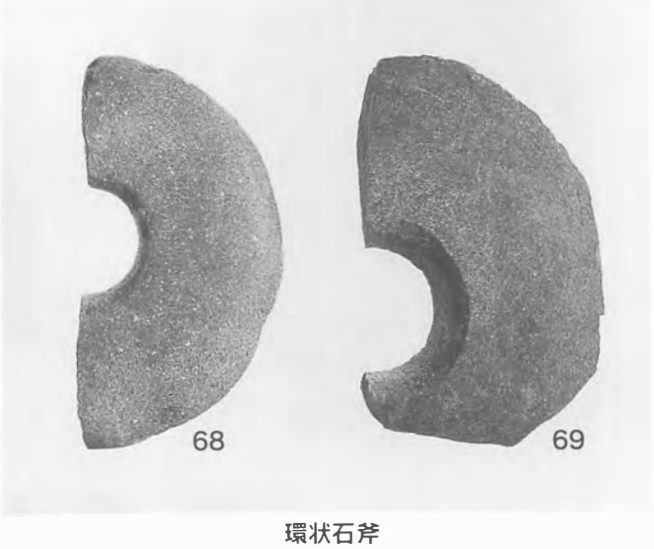


石鏃

石包丁

有溝石器

砥石

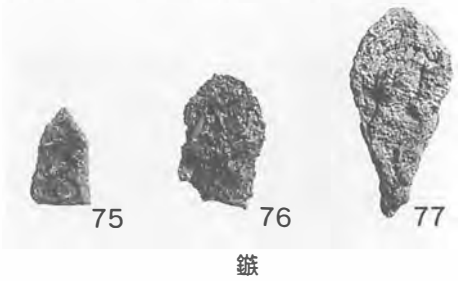


環状石斧

立石遺跡出土　石器　S=約1/2

手鎌

鉇



鏃

立石遺跡出土　鉄製品　S=約1/2

立石遺跡Ⅰ・Ⅴ区出土　遺物　S=約1/4

第Ⅳ章 大鶴Ａ遺跡の調査

第1節　大鶴Ａ遺跡の位置と層位

位置（第１５図）

大鶴Ａ遺跡は大津町大字外牧に在し、その中でも最も東に位置する。標高は170ｍ前後で東から西に緩やかに傾斜している。

調査はＡ・Ｂ・Ｃ区の３ヶ所で行われ、縄文時代前期から中世までの遺構と遺物が見つかっている。

層位（第１４図）

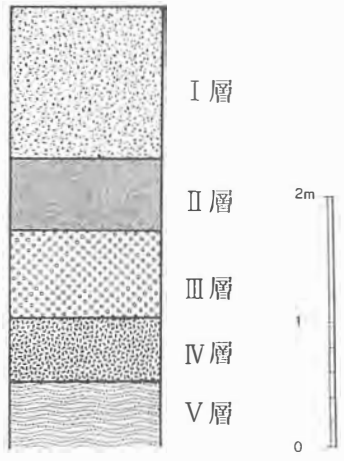
Ⅰ層　灰褐色土　耕作土である。

Ⅱ層　黒褐色土　中世以降の遺物包含層である。

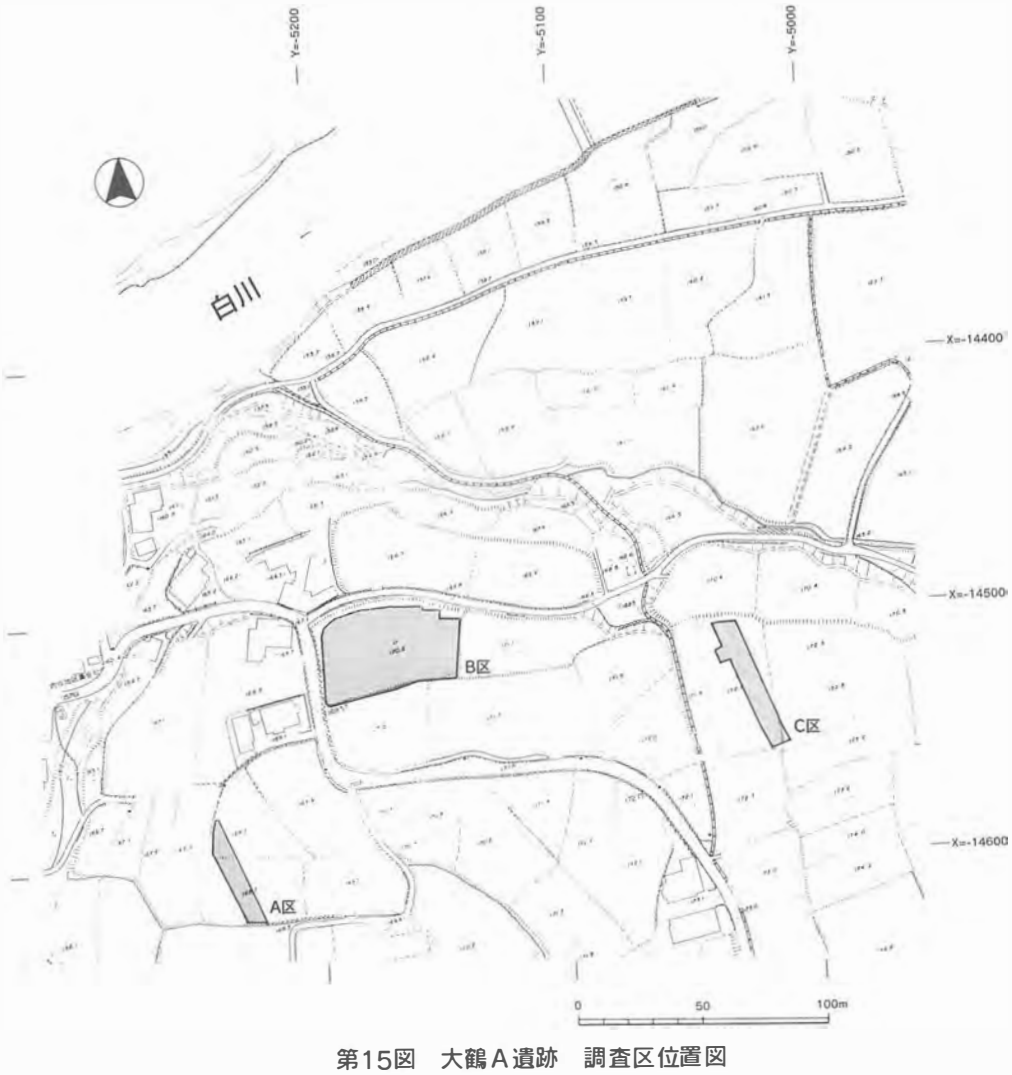
Ⅲ層　褐色土　アカホヤの二次堆積土で、弥生時代の包含層および遺構検出面である。

Ⅳ層　黒色土

Ⅴ層　ローム　軽石が混じる。



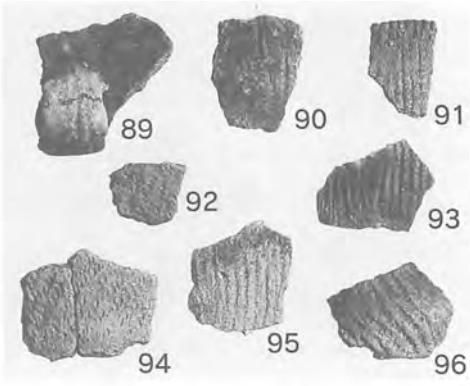
第14図　大鶴Ａ遺跡　基本土層図



第15図　大鶴Ａ遺跡　調査区位置図

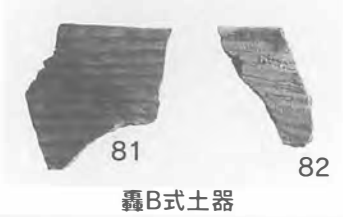
第2節　縄文時代の遺物

大鶴A遺跡では、C区において縄文時代前期～後・晩期の遺物が出土している。前期～中期にかけての遺物はC区中央部と北西部の2ヶ所から集中して出土しているが、遺構は確認されていない。最も多く出土しているのは曽畑式土器で、口縁部が外反し、文様体の区画が明瞭でないタイプのものが多く見られる。器面の調整は丁寧なナデが施され、胎土に滑石が混入されているものもある。また、その他にも地文に貝殻条痕を施し、細隆起帯文を貼り付けた轟B式土器、熊本県天水町所在の尾田貝塚出土の土器群を標式とする尾田式土器、地文に条痕を施し、細い綾杉状の沈線を施した轟CD式土器、瀬戸内地方で中期に隆盛する船元式土器など前期から中期初めにかけての土器が多数出土している。

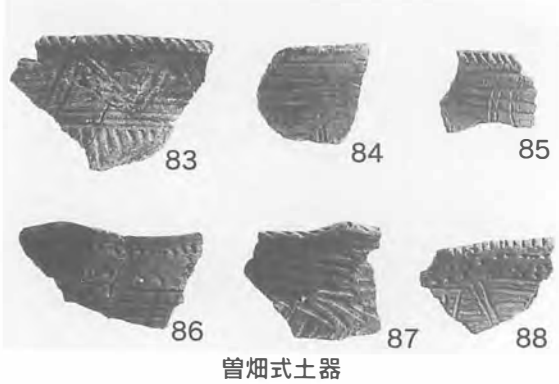


船元式土器

尾田式土器



轟B式土器



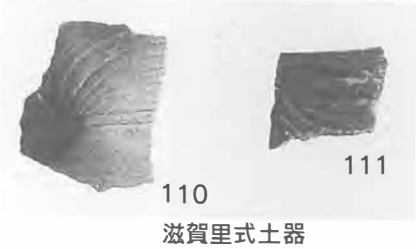
曽畑式土器

轟CD式、その他の土器

大鶴A遺跡　縄文前期～中期　出土土器　S=約1/4

北久根山式土器

鐘ヶ崎式土器

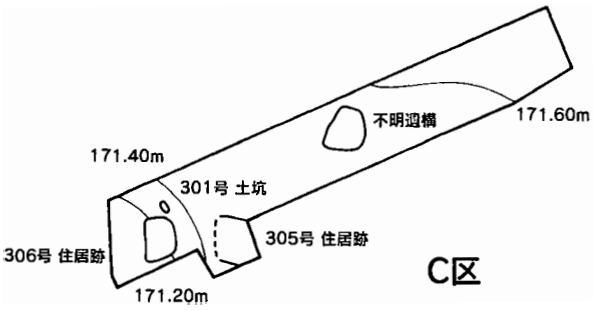


滋賀里式土器

大鶴A遺跡　縄文後期　出土土器　S=約1/3

第3節　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、遺構配置図に見られるようにB・C調査区より検出された。その内容は、竪穴式住居跡4軒、土坑1基、不明遺構１基である。住居跡の主軸の方向はほぼ東西を向き、4軒の住居跡に共通している。また、主柱は2本柱と4本柱のものがあり、いずれの遺構もⅢ層上面からの検出である。



204号住居跡（第１７図）

平面形態は長方形を呈し、長軸3.48m、短軸2.88m、深さは約20㎝を測る。主柱は4本と考えられる。竪穴中央部には炉が検出され、その周囲には硬化面が広がっている。住居跡北東部には壁溝と呼ばれる溝が掘られている。壁溝の深さは約10㎝で溝の底部の幅は2～4㎝である。

出土遺物　遺物量は少なく、土器の小片が6点出土している。

305号住居跡（第１７図）

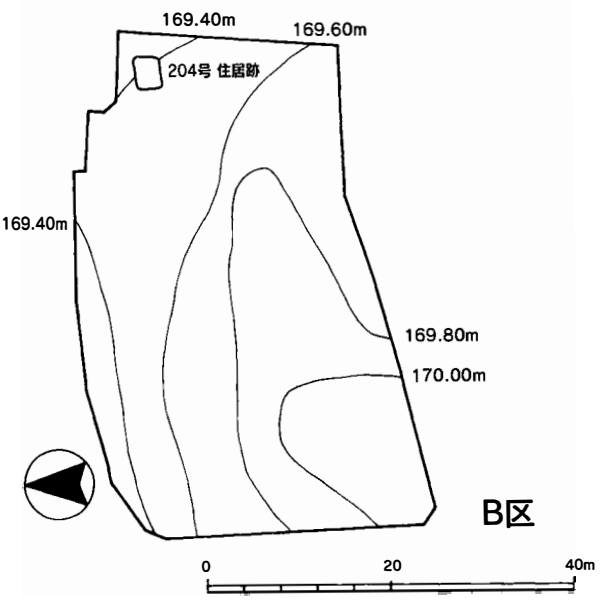
北側を302SIに切られ、また南側は調査区外に延びていることから平面形態は不明である。残存する方向の軸の長さは5.04ｍを測り、遺構検出面からの深さは約50㎝である。住居の南端で炉が検出されている。

出土遺物　床面直上より甕形土器の底部など十数点の弥生土器が出土している。

306号住居跡（第１７図）

平面形態は長方形を呈し、長軸4.08m、短軸3.08m、遺構検出面からの深さは約30㎝を測る。主柱は長軸に沿った2本と考えられる。また、床面に炭化物が検出されており、焼失家屋の可能性がある。

出土遺物　床面直上よりタタキ目がのこる長脚の甕形土器がほぼ完形で出土している他、石斧・磨石・台石などが出土している。

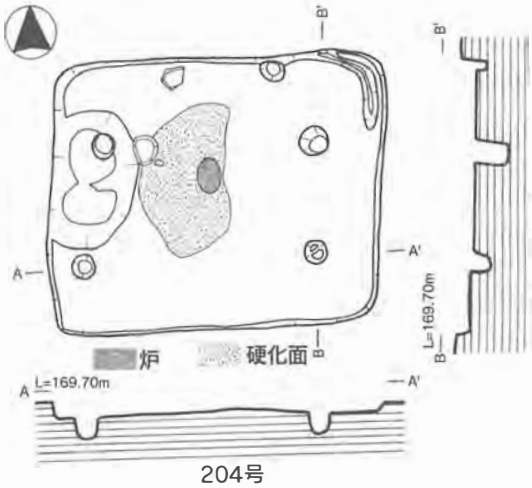


第16図　大鶴Ａ遺跡　弥生時代遺構配置図

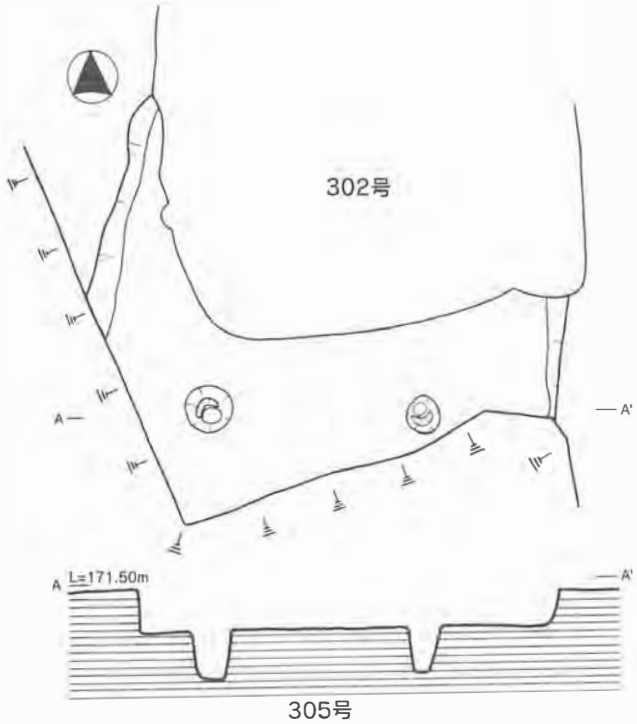
306号住居跡　遺物出土状況

306号住居跡出土　甕形土器　S=約1/8

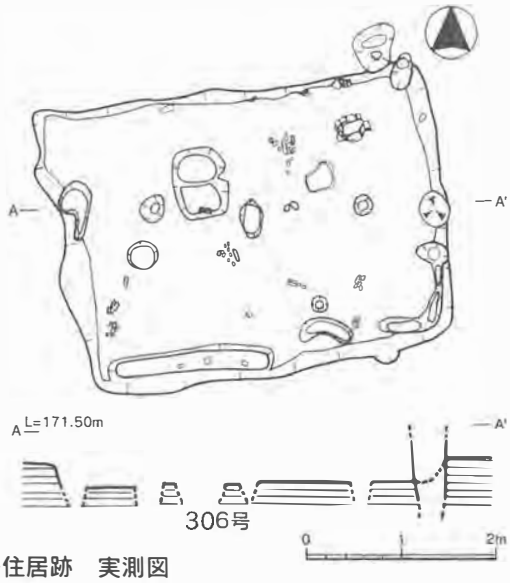
306号住居跡出土
石斧　S=約1/2



204号



305号



306号

第17図　204・305・306号住居跡　実測図

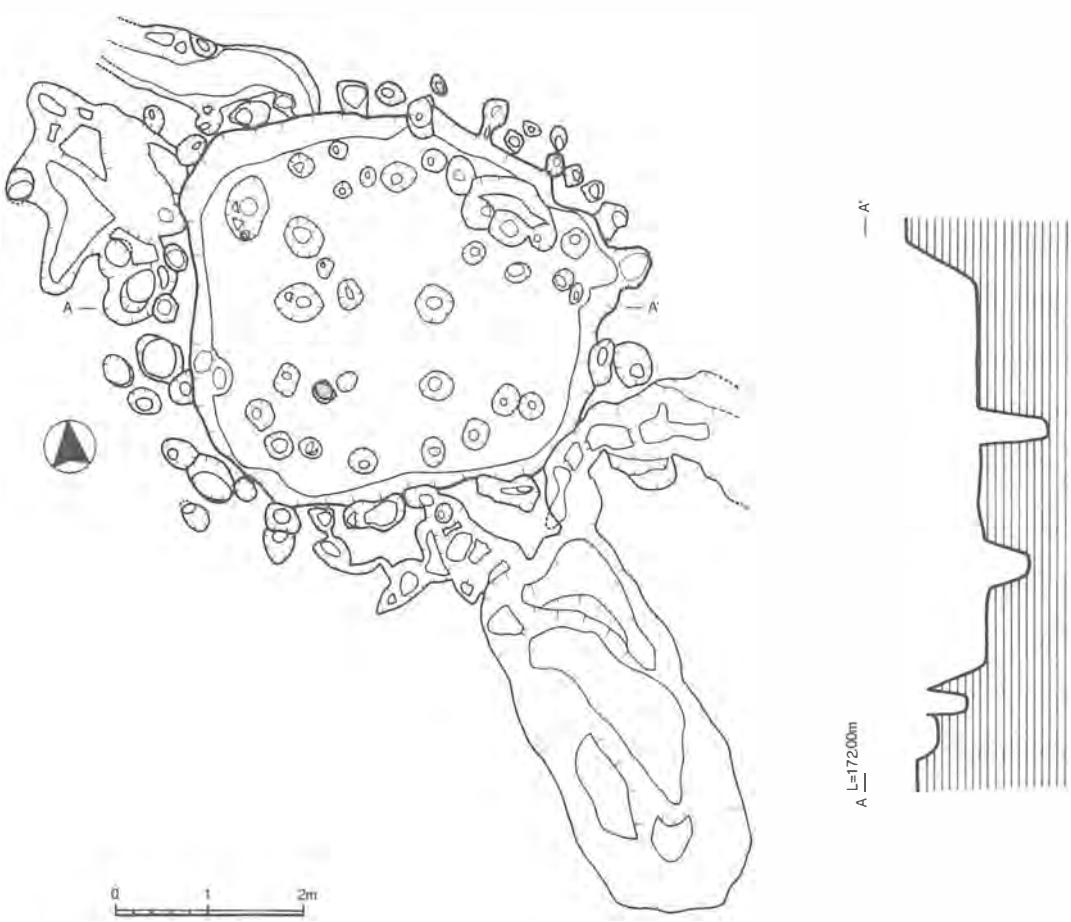
301号土坑

平面形態は楕円形を呈し、長軸１.４m、短軸0.７mを測る。完形の壷形土器が出土している。

不明遺構（第１８図）

平面形態が方形を呈する竪穴部の周囲に多数の柱穴が配されており、南側に楕円形の土坑がこれに続く。竪穴部からはタタキ目がのこる甕形土器の胴部片などが出土している。

301号土坑出土　壷形土器　S=約1/8



第18図　不明遺構　実測図

第4節　古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては竪穴式住居跡6軒が検出されている。いずれもB・C調査区から見つかっており主軸はほぼ東西を向いている。

201号住居跡（第20図）

平面形態はほぼ方形を呈し、長軸3.68m、短軸3.24m、遺構検出面からの深さは平均40cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

出土遺物　埋土中より土師器の小片が十数点出土し、袋状鉄斧が出土している。

202号住居跡（第20図）

平面形態は方形を呈し、長軸2.96m、短軸2.96m、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

出土遺物　埋土中より壷形土器の口縁部から胴部上半にかけてが出土している。

203号住居跡（第20図）

平面形態は長方形を呈し、長軸4.48m、短軸3.92m、遺構検出面からの深さは約30cmを測る。柱穴は検出されていないが、形態から住居跡の可能性が高いと思われる。

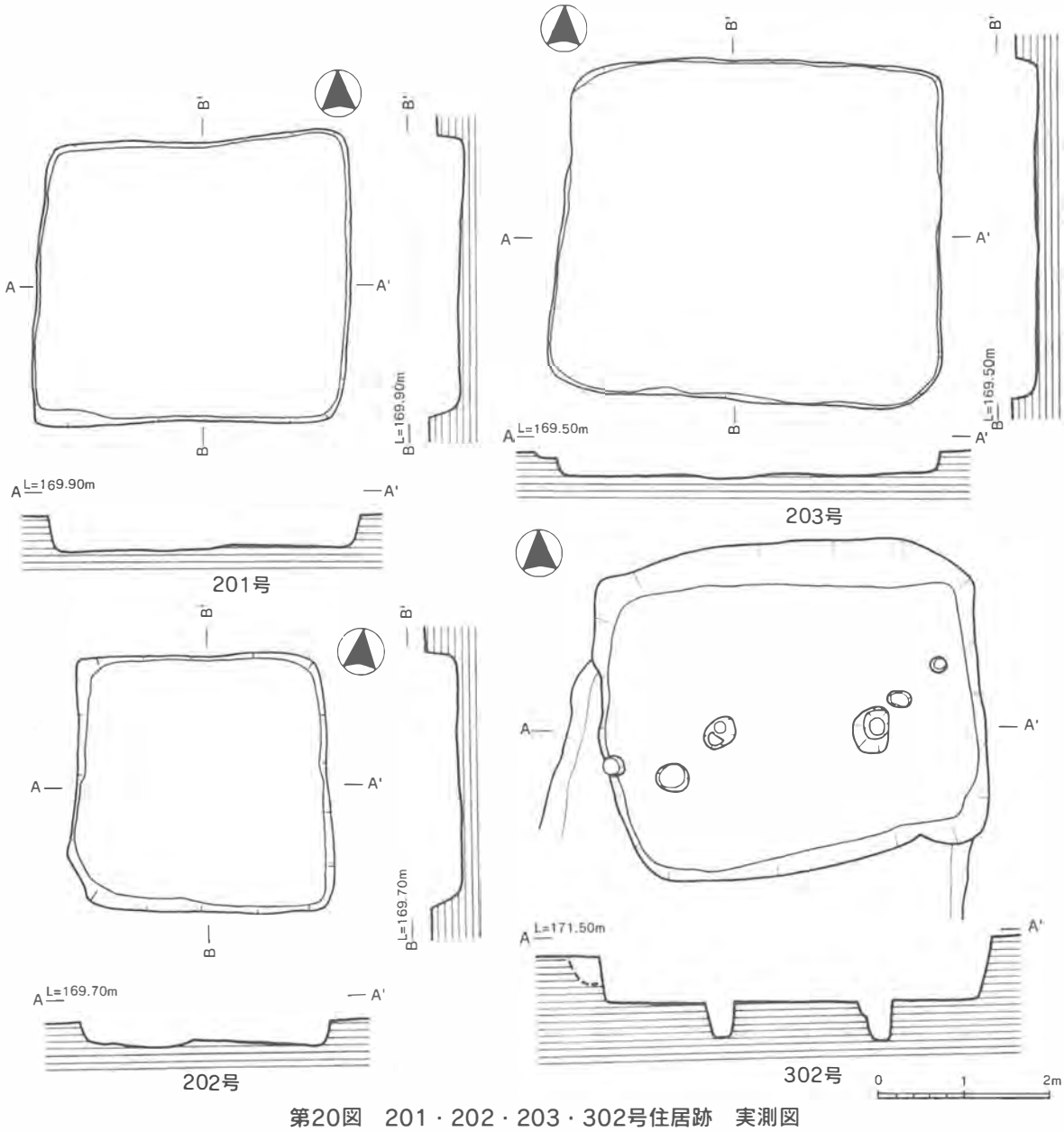
出土遺物　住居跡埋土の下層より土師器の小片4点が出土している。

302号住居跡（第20図）

305号住居跡を切るかたちで検出されている。平面形態は方形を呈し、長軸4.84m、短軸3.80m、遺構検出面からの深さは約80cmを測る。主柱は長軸に沿った2本と考えられる。

出土遺物　住居跡埋土の下層より口縁部から胴部下半にかけての壷形土器1点のほか、壷形土器の胴部の一部などが出土している。

第19図　大鶴A遺跡　古墳時代遺構配置図

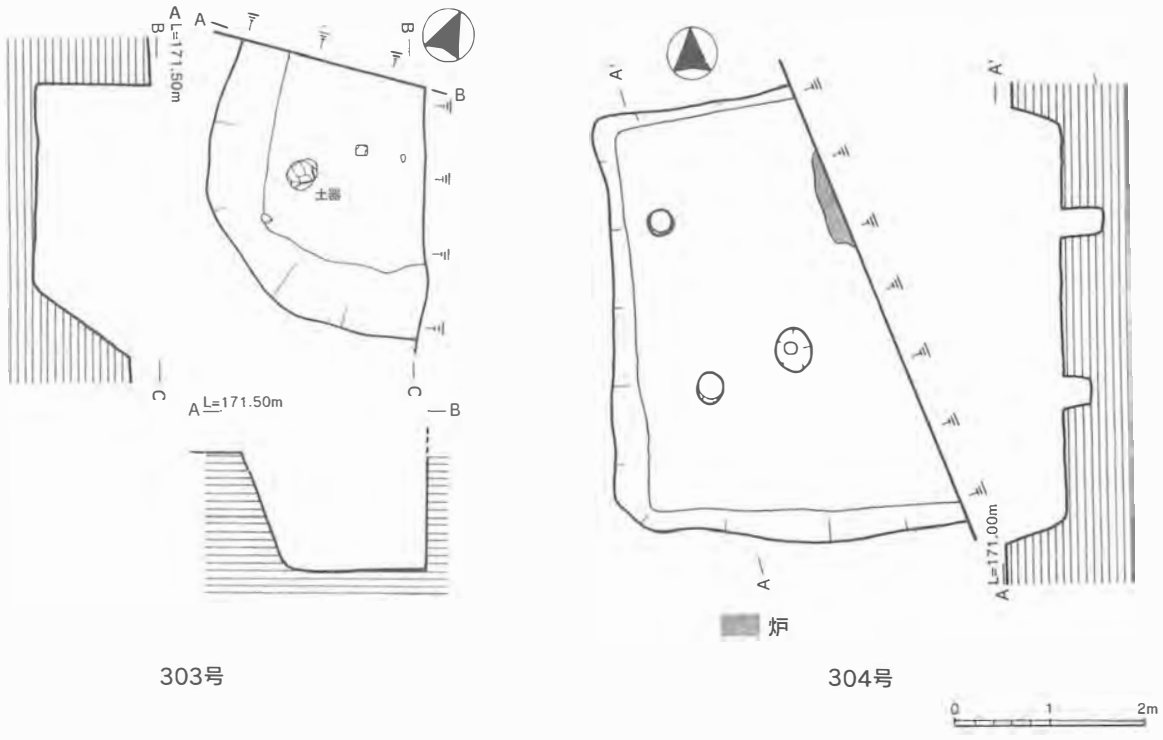


第20図　201・202・203・302号住居跡　実測図

115

201号出土　袋状鉄斧　S=約1/2

302号住居跡出土　甕形土器　S=約1/5



第21図　303·304号住居跡　実測図

303号住居跡（第21図）

遺構の北側及び東側が調査区外に延びているため、平面形態は不明である。遺構検出面からの深さは約120cmを測る。また、柱穴は検出されていない。

出土遺物　床面直上より完形の壺形土器が出土している。

304号住居跡（第21図）

住居跡東側が調査区外に延びているため、平面形態は不明である。残存する方向の軸の長さは4.76mで遺構検出面からの深さは約50cmを測る。住居跡東側に焼土が認められる。

出土遺物　埋土中より壺形土器の口縁部から胴部上半にかけてが出土している。

303号住居跡出土　壺形土器　S=約1/5

第５節　中世以降の遺構と遺物(第22図)

中世以降の遺構としては、A・B区より道路状遺構、溝が検出されている。

道路状遺構

B区より検出され、調査区北西から東にかけて横断している。最深部は遺構検出面より1.18m、上端の最大幅は5.66mである。また、道路面であったと考えられる硬化面の最大幅は約70cmである。

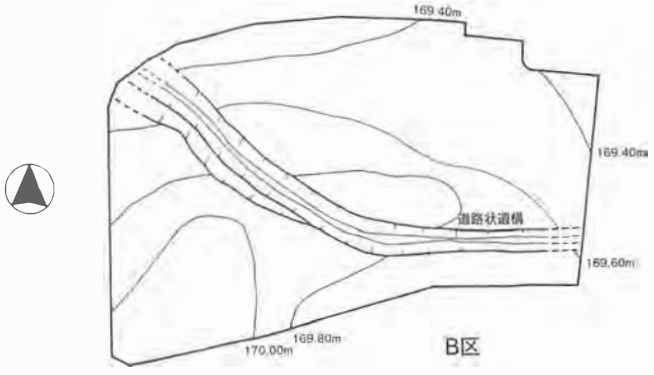
遺物は中世の陶磁器類が出土しており、この遺構の年代の下限は中世と思われる。

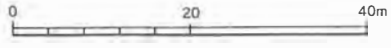
溝遺構

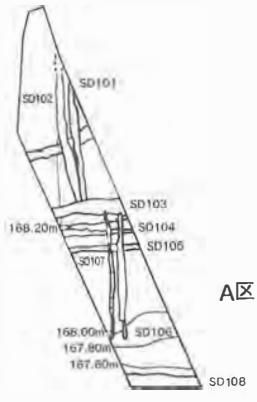
A区に位置し、南北方向に掘られているものと東西方向に掘られているもの、あわせて８条の溝がある。

出土遺物は少なく、近世の陶磁器類の小片が数点出土している。

A区　溝遺構　完掘状況







A区

第22図　大鶴A遺跡　中世以降の遺構配置図

第6節　まとめ

調査の結果、大鶴A遺跡では縄文時代～中世以降の遺構、遺物が出土した。以下、時代ごとに成果をまとめたい。

縄文時代

前期～中期

【遺物】　この時代の遺構は確認されなかったものの、遺物はA・B・C各調査区より出土した。まず、前期～中期にかけての遺物はC区を中心に包含層より出土している。その中でも量的に最も多いのが曽畑式土器で、その他、轟B式土器、尾田式土器、船元式土器、轟CD式土器などが出土している。

後期の土器は若干ではあるが、A・B区より鐘ヶ崎式土器、北久根山式土器などが出土している。

弥生時代

後期

【遺構】　弥生時代の遺構は住居跡3軒、土坑1基、不明遺構1基が検出された。住居跡はいずれも長方形を呈し、2本柱と4本柱のものがある。204、306号住居跡の壁際には、浅い壁溝と呼ばれる溝があるが、いずれの住居跡にもベッド状遺構は見られない。

また、不明遺構は弥生時代後期の遺物が出土しているものの、他の住居跡などと異なり柱穴が異常に多く、また形も不定形であることなどから住居跡とは認められがたく不明遺構とした。

土坑は、壺形土器がほぼ完形で出土しており、埋納された可能性が高い。

【遺物】　A・B・C調査区の遺構の埋土、及び包含層より出土している。住居跡に伴う時期の遺物は弥生時代後期後半のもので白川水系に特有な三角断面形の口縁を持つ複合口縁壺や長脚化した脚台を持つ甕形土器などが出土している。

大鶴A遺跡出土　小型丸底壷　S=約1/2

古墳時代

【遺構】　この時代の遺構は住居跡6軒が検出された。柱穴が検出されているものは2本柱である。遺構からの遺物の出土状況は床直上より出土した303号住居跡を除いては埋土中からの出土である。その他、特記すべき遺物としては、201号住居跡出土の袋状鉄斧で、床面近くにおいて出土している。

また、包含層から小型丸底壷（№118)が出土している。

中世以降

【遺構】　中世以降の遺構はA・B区より検出された。

このうち中世の遺構は道路状遺構で陶磁器の小片が数点出土している。溝は近世以降のものと考えられる。

大鶴A遺跡出土　石鏃　S=約1/2

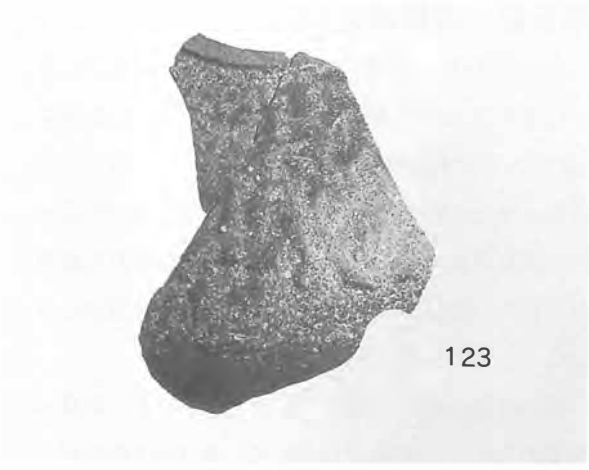
第Ⅴ章　上揚遺跡・前畑遺跡の調査

第1節　上揚遺跡（第23図）

上揚遺跡は大津町大字錦野に在し、立石遺跡の東側に位置する。白川南岸の沖積地に位置し、標高は120m前後で、東から西に緩やかに傾斜している。またA区とB区との距離は約500mでそれぞれの調査区は全く違う様相を見せている。

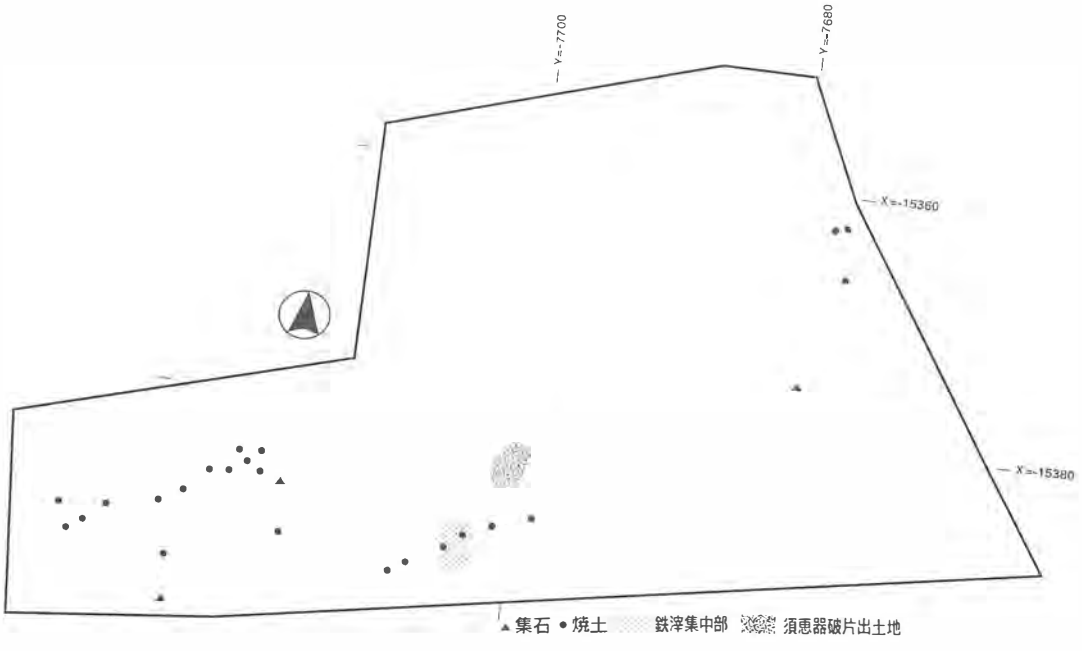
まず、A区からは、遺構は検出されなかったが、後期の北久根山式土器などが出土している。

B区では集石が3基検出され、押型文土器が数点出土している他、焼土が南西方向から北東方向に向かって列状に多数確認されており、そのうち調査区中央の焼土の周辺では鉄滓が検出されており、鍛冶に関する遺構があった可能性がある。鉄製品は20点が出土している（器種不明を含む）。また、その北東部では約4メートル四方にわたって須恵器の破片が集中して出土（№124）している。（第23図参照）



上揚遺跡B区出土　甕　S=約1/2

上揚遺跡B区出土　平瓶　S= 約1/3

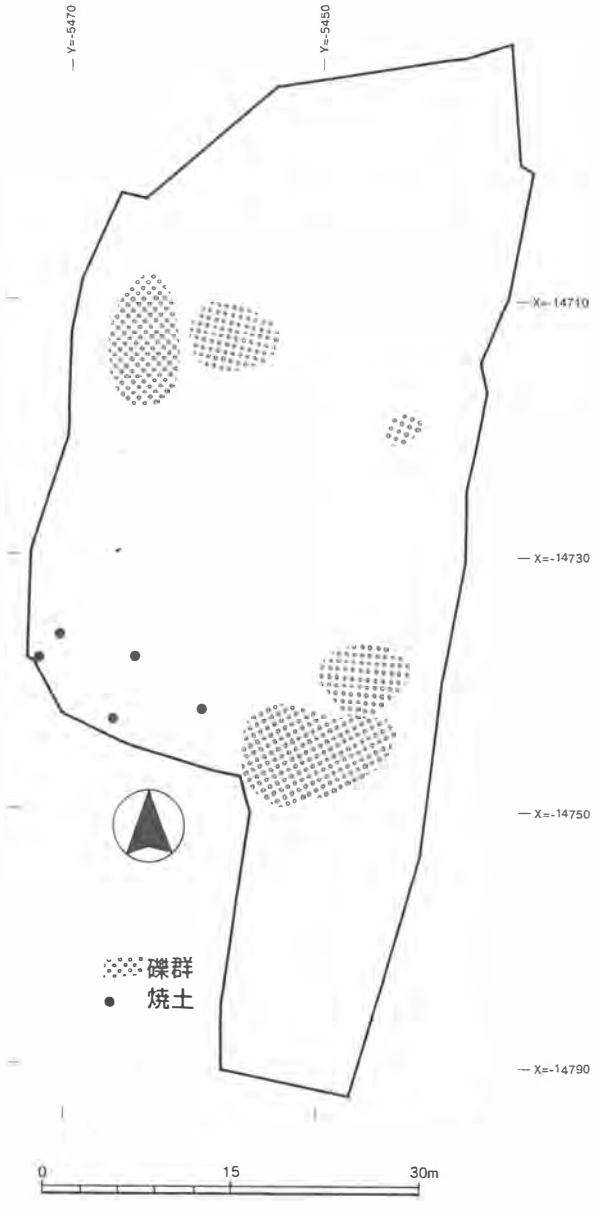


第23図　上揚遺跡B区　遺構配置図

第２節　前畑遺跡（第２４図）

前畑遺跡は、大津町大字外牧に在し、現在の集落をはさんで大鶴Ａ遺跡の西側に位置する。標高は120m前後で東から西に緩やかに傾斜し、調査の結果、礫群と焼土が検出された。礫群は、調査区内の5ヶ所で確認されているが、その成因や形成された時期などについては不明である。また、焼土は掘り込みはなく、その様相は不明である。

遺物は包含層より、須恵器や土師器など、奈良・平安時代のものが出土している。瓶子は2個体が一緒に出土しているが遺構は検出されていない。また、墨書土器が1点出土しており、「東○ 上○」と判読できる。



第24図　前畑遺跡　遺構配置図

前畑遺跡出土　墨書土器　S=約1/2

前畑遺跡出土　瓶子　S=約1/3

第Ⅵ章　総括

以上、大津町大字錦野・大字外牧の白川南岸に点在する４遺跡について、遺跡ごとの調査における成果について述べてきた。この章ではそれぞれの成果を踏まえつつ、時代ごとにまとめたい。

縄文時代

早期

立石遺跡において早期の集石１０基が検出されている他、**上揚遺跡**からも集石３基が検出された。立石遺跡の集石の周囲、及び包含層からは山形文・楕円文・格子文の押型文土器をはじめ、条痕文土器、瘤付の無文土器、縄文土器、撚糸文土器などが出土している。出土土器のうち押型文土器が全体の約７割を占め、押型文土器のなかでは山形文土器が約６割を占める。口縁部・底部の形態、施文法などから数種類に分類できる。白川を挟んで対岸に位置する瀬田裏遺跡との関係からも、これらの遺物が今後詳しく検討されることが必要と思われる。

縄文時代

前期～中期

この時期の遺構は検出されていないが、遺物は**大鶴A遺跡**において包含層および新しい時代の遺構のなかより出土している。曽畑式土器を中心に、轟B式土器、轟ＣＤ式土器、尾田式土器、瀬戸内地方で隆盛する船元式土器など、前期から中期初めにかけての土器が出土している。

前期～中期にかけては遺跡が少ない時期であることから、この時期の土器文化の交流を知る上で貴重な資料と言える。

縄文時代

後期～晩期

縄文時代後期～晩期までの遺物は**上揚遺跡、大鶴A遺跡**で検出された。いずれも遺構は検出されておらず出土遺物も10数点である。その中で注目されるのは近畿地方の土器である滋賀里式土器で赤色顔料によって彩色されている。

弥生時代

中期

中期の遺構は検出されていないが、遺物は立石遺跡より黒髪式土器などが多数出土している。

弥生時代

後期

後期の遺構は**立石遺跡**より住居跡10軒・土器溜め1基、**大鶴A遺跡**より住居跡3軒・土坑1基・不明遺構1基が検出されている。

なかでも、**立石遺跡**における土器溜めからの大量の遺物の出土、住居跡埋土からの銅鏃の出土はこの集落が地域の拠点的な集落であったことを示唆する。しかも、後期前半頃のこのような一括での出土は熊本県内でもあまり出土例がなく、これまで様相があまりつかめていなかった後期前半頃の土器形式を知る上で貴重な資料といえる。

また、立石遺跡の各調査区から出土した弥生土器のうち、黒髪式土器を含む中期～後期中頃までの

調査区	重量	調査面積	1平方メートルあたりの重量	調査区	重量	調査面積	1平方メートルあたりの重量
Ⅰ区	約4kg	264.7㎡	約15g/㎡	Ⅴ区	約79kg	97.7㎡	約809g/㎡
Ⅱ区	約2kg	167.5㎡	約12g/㎡	Ⅵ区	約30kg	253.9㎡	約118g/㎡
Ⅲ区	約44kg	176.1㎡	約250g/㎡	Ⅶ区	約4kg	59.7㎡	約67g/㎡
Ⅳ区（土器溜め含む）	約242kg	651.6㎡	約371g/㎡	Ⅷ区	約22kg	374.9㎡	約59g/㎡
土器溜め	約150kg	1.4㎡	約107kg/㎡				

第2表　立石遺跡　弥生土器出土量（中期～後期）

土器がかなりの割合を占めており、特にⅢ、Ⅳ区そして隣接するⅤ区においては大量に出土している。（第2表参照）これらのことから、検出された遺構の時期（後期後半）以前にも同様の場所において人々の生活が営まれていた可能性が高いと言える。

古墳時代

古墳時代の遺構としては、**大鶴A遺跡**より竪穴式住居跡６軒が検出されている。当初これらの住居跡は弥生時代の遺構と考えられていたが、整理作業の結果、古墳時代の土師器が出土していることが確認された。これらの遺物から住居は５世紀初頭頃に形成されていたものと考えられ、弥生時代後期後半の住居跡と同じ土地に住居を営んでいることから、弥生時代から古墳時代にかけての集落が立地のうえで差違がないことが伺える。

また、**上揚遺跡**からは壺や短經壷などの須恵器の破片が出土している。

奈良・平安時代

この時期の遺構・遺物は**上揚遺跡**・**前畑遺跡**において検出されている。いずれの遺跡からも方形や円形の焼土が検出され、また上揚遺跡においては周囲よりスラグなどが出土していることから鍛冶関連の遺構の可能性が考えられる。遺物は土師器や須恵器が出土している。

中世以降

中世～近世にかけての遺構としては**大鶴Ａ遺跡**より道路状遺構、溝などが検出されている。遺物に乏しく、様相はつかめていないが、道路状遺構は地形に沿って北西方向から南東方向に延びる。

第3表　出土遺物一覧（№は遺物の横に付したものを指す）

遺物№	遺物内容	出土地点		縮小率	頁
1	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/3	12
2	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　9号集石	S=約1/3	12
3	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　5号集石	S=約1/3	12
4	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/3	12
5	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/3	12
6	押型文土器(楕円文)	立石遺跡	Ⅵ区　4号集石	S=約1/3	12
7	押型文土器(楕円文)	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/3	12
8	無文土器	立石遺跡	Ⅵ区　9号集石　包含層一括　接合	S=約1/3	12
9	無文土器	立石遺跡	Ⅵ区　7号集石､9号集石　接合	S=約1/3	12
10	条痕文土器	立石遺跡	Ⅵ区　4号集石	S=約1/3	12
11	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　7号集石	S=約1/3	12
12	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　4号集石	S=約1/3	12
13	押型文土器(山形文)	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/3	12
14	甕形土器	立石遺跡	Ⅲ区　301号住居跡	S=約1/8	14
15	甕形土器	立石遺跡	Ⅲ区　301号住居跡	S=約1/8	14
16	銅鏃	立石遺跡	Ⅲ区　304号住居跡	原寸	15
17	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	18
18	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め+405号住居跡　下層　接合	S=約1/5	18
19	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	19
20	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	19
21	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	19
22	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め+405号住居跡　下層　接合	S=約1/5	19
23	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	19
24	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	19
25	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	20
26	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	20
27	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め+405号住居跡　床　接合	S=約1/3	20
28	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め+Ⅴ区南　接合	S=約1/3	21
29	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	21
30	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	21
31	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	21
32	壷形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	21
33	高坏	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め+405号住居跡　ベ　接合	S=約1/3	22
34	器台	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	22
35	器台	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	22
36	器台	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	22
37	器台	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	22
38	器台	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/3	22
39	甕形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	23
40	甕形土器	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/5	23
41	脚台付甕の底部	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	スケールは不統一	23
42	磨石	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/2	23
43	磨石	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/2	23
44	石斧	立石遺跡	Ⅳ区　土器溜め	S=約1/2	23
45	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/2	26
46	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区　包含層一括	S=約1/2	26
47	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区　304号住居跡	S=約1/2	26
48	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区　4号集石	S=約1/2	26

49	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区	包含層一括	S=約1/2	26
50	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	包含層一括	S=約1/2	26
51	石鏃	立石遺跡	包含層一括		S=約1/2	26
52	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区	包含層一括	S=約1/2	26
53	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	405号住居跡	S=約1/2	26
54	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	包含層一括	S=約1/2	26
55	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	3号集石	S=約1/2	26
56	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	301号住居跡	S=約1/2	26
57	石鏃	立石遺跡	Ⅳ区	405号住居跡	S=約1/2	26
58	石斧	立石遺跡	Ⅶ区	包含層一括	S=約1/2	26
59	石斧	立石遺跡	Ⅴ区	包含層一括	S=約1/2	26
60	石斧	立石遺跡	包含層一括		S=約1/2	26
61	石鏃	立石遺跡	Ⅴ区	包含層一括	S=約1/2	27
62	石鏃	立石遺跡	Ⅲ区	304号住居跡	S=約1/2	27
63	石鏃	立石遺跡	Ⅵ区	包含層一括	S=約1/2	27
64	石鏃	立石遺跡	Ⅴ区	包含層一括	S=約1/2	27
65	石包丁	立石遺跡	Ⅲ区	304号住居跡	S=約1/2	27
66	有溝石器	立石遺跡	Ⅳ区	406、407号住居跡　一括	S=約1/2	27
67	砥石	立石遺跡	Ⅳ区	包含層一括	S=約1/2	27
68	環状石斧	立石遺跡	包含層一括		S=約1/2	27
69	環状石斧	立石遺跡	Ⅴ区	包含層一括	S=約1/2	27
70	手鎌（鉄器）	立石遺跡	Ⅳ区	405号住居跡　中層	S=約1/2	28
71	手鎌（鉄器）	立石遺跡	Ⅳ区	包含層一括	S=約1/2	28
72	鉇（鉄器）	立石遺跡	Ⅲ区	304号住居跡	S=約1/2	28
73	鉇（鉄器）	立石遺跡	Ⅲ区	301号住居跡	S=約1/2	28
74	鉇（鉄器）	立石遺跡	Ⅳ区	406号住居跡　床直	S=約1/2	28
75	鏃（鉄器）	立石遺跡	Ⅳ区	405号住居跡	S=約1/2	28
76	鏃（鉄器）	立石遺跡	Ⅳ区	405号住居跡	S=約1/2	28
77	鏃（鉄器）	立石遺跡	Ⅲ区	406号住居跡　下層	S=約1/2	28
78	鉢形土器	立石遺跡	Ⅴ区	包含層一括	S=約1/4	28
79	壺形土器	立石遺跡	Ⅰ区	包含層一括	S=約1/4	28
80	壺形土器	立石遺跡	Ⅰ区	包含層一括	S=約1/4	28
81	磨B式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
82	磨B式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
83	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括+306号住居跡　上層　接合	S=約1/4	30
84	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	305号住居跡	S=約1/4	30
85	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
86	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
87	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	306号住居跡	S=約1/4	30
88	曽畑式土器	大鶴A遺跡	C 区	306号住居跡	S=約1/4	30
89	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
90	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
91	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
92	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
93	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
94	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	不明遺構+包含層一括　接合	S=約1/4	30
95	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	不明遺構	S=約1/4	30
96	船元式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
97	尾田式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
98	尾田式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30
99	尾田式土器	大鶴A遺跡	C 区	306号住居跡	S=約1/4	30
100	尾田式土器	大鶴A遺跡	C 区	包含層一括	S=約1/4	30

101	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
102	尾田式土器	大鶴A遺跡	C区	301号住居跡+包含層一括　接合	S=約1/4	30
103	形式不明土器	大鶴A遺跡	C区	302号住居跡	S=約1/4	30
104	形式不明土器	大鶴A遺跡	C区	201号住居跡	S=約1/4	30
105	轟CD式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
106	轟CD式土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括	S=約1/4	30
107	北久根山式土器	大鶴A遺跡	A区	包含層一括	S=約1/3	30
108	北久根山式土器	大鶴A遺跡	B区	道路状遺構	S=約1/3	30
109	鐘ヶ崎式土器	大鶴A遺跡	B区	包含層一括	S=約1/3	30
110	滋賀里式土器	大鶴A遺跡	A区	包含層一括	S=約1/3	30
111	滋賀里式土器	大鶴A遺跡	A区	包含層一括	S=約1/3	30
112	甕形土器	大鶴A遺跡	C区	包含層一括+306号住居跡　接合	S=約1/8	32
113	石斧	大鶴A遺跡	C区	306号住居跡	S=約1/2	32
114	壺形土器	大鶴A遺跡	C区	301号土坑	S=約1/8	33
115	袋状鉄斧	大鶴A遺跡	B区	201号住居跡	S=約1/2	35
116	甕形土器	大鶴A遺跡	C区	302号住居跡	S=約1/5	35
117	壺形土器	大鶴A遺跡	C区	303号住居跡	S=約1/5	36
118	小型丸底壺	大鶴A遺跡	包含層一括		S=約1/2	38
119	石鏃	大鶴A遺跡	C区	不明遺構	S=約1/2	38
120	石鏃	大鶴A遺跡	C区	306号住居跡	S=約1/2	38
121	石鏃	大鶴A遺跡	C区	不明遺構	S=約1/2	38
122	石鏃	大鶴A遺跡	表採		S=約1/2	38
123	碗	上揚遺跡	B区	包含層一括	S=約1/2	39
124	平瓶	上揚遺跡	B区	包含層一括	S=約1/3	39
125	墨書土器	前畑遺跡	包含層一括		S=約1/2	40
126	瓶子	前畑遺跡	包含層一括		S=約1/3	40
127	瓶子	前畑遺跡	包含層一括		S=約1/3	40

あとがき

今回の報告では編集者の未熟さに加え時間的な制約が重なり、各遺跡の概要を述べるに留まったとの感は拭えない。しかしながら今回の報告を行うことにより「埋蔵文化財」に携わる者の一人として、その持つ意義を改めて感じることはできた。４遺跡はそれぞれに特異な遺跡であり、最小限の遺物の掲載であることは編集者として残念ではあったが、小さな土器片のひとつひとつまでに生命を吹き込む作業は充実した時間であり、その中で本報告書が刊行に至ることができたのは、いつも笑顔を絶やさず整理作業に携わって頂いた方々のご尽力の賜物と思う。最後になるが、ここに記すことによって感謝の意を表したい。

吉本 清子　　山野 孝子　　尾方 マサミ　　浦田 和恵
緒方 千代子　　可児 真由実　　乗富 祐子　　村田百合子

（ 戸田　記 ）

報告書抄録

ふりがな	たていしいせき・おおつるえーいせき・かみあげいせき・まえはたいせき
書名	立石遺跡・大鶴A遺跡・上揚遺跡・前畑遺跡
副書名	担い手育成基盤整備事業
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第176集
編集者名	戸田清恵
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8570　熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	1999年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
立石遺跡	菊池郡大津町錦野	43403	43403080	199312～199403	2050㎡	担い手育成基盤整備事業
大鶴A遺跡	菊i池郡大津町外牧	43403	43403081	199509～199602	2420㎡	
上揚遺跡	菊池郡大津町錦野	43403	43403080	199410～199503	3270㎡	
前畑遺跡	菊池郡大津町外牧	43403	43403083	199504～199509	2000㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
立石遺跡	集落	縄文時代早期	集石10基	押型文・無文・条痕文土器	
	集落	弥生時代後期	竪穴式住居10軒	弥生土器、銅鏃、鉄器	住居跡埋土中より銅鏃が出土
			土器溜め1基	弥生土器、石器	130個体にのぼる土器が出土。弥生時代後期前半～中頃にかけてのセット関係を知る良好な資料
大鶴Ａ遺跡	集落	弥生時代後期	竪穴式住居3軒 土坑1基	弥生土器、石器、鉄器	弥生時代後期終末期の住居跡
		古墳時代前期	竪穴式住居6軒	古式土師器	
		中世	道路状遺構1条		
上揚遺跡		古墳～奈良・平安時代		須恵器（甕・平瓶他） 土師器	鉄滓が集中して出土。鍛冶関連の遺構か。
前畑遺跡		奈良・平安時代		須恵器 土師器	

熊本県文化財調査報告　第176集

立石遺跡　大鶴A遺跡
上揚遺跡　前畑遺跡

平成11年3月31日

編集
発行　熊本県教育委員会
〒862-8570　熊本市水前寺6丁目18番1号

印刷　株式会社西川印刷
〒865-0136　玉名郡菊水町江田4345番地1

10　教委　教文
②　　007

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 176 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：立石遺跡 大鶴 A 遺跡 上揚遺跡 前畑遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日